

平成26年度
全国学力・学習状況調査報告書

～当別町における結果分析～

平成26年12月

当別町教育委員会

- 当別町教育委員会から -

- 1 本調査の公表は、文部科学省の方針に基づいて行っています。
- 2 保護者の皆様には、本報告書をもとにお子様との話し合いを深めていただき、今後の学力向上や生活習慣の改善について、家庭での取り組みをお願いいたします。
- 3 学力調査は、小学校6年生が小学校1年生から5年生までの内容、中学校3年生が中学校1年生から2年生までの内容となっています。
- 4 学習状況調査は、生活習慣や家庭学習習慣等について調査しています。
- 5 本調査によってわかるのは学力の一部であり、学校の教育活動の一部であることにご留意ください。
- 6 本調査は、毎年の問題によって難易度に差が出ますし、受ける子どもも変わりますので、正答率だけでその学校全体の学力が上がったのか下がったのかの変化はわかりません。
むしろ本調査後の学校改善プランなど、各学校の対応策に注目をしてください。

目 次

当別町における平成26年度全国学力・学習状況調査の実施概要

1 調査の目的	1
2 調査の対象学年	1
3 調査の内容	1
4 調査期日	1
5 調査を実施した学校・児童生徒数	1

小学校の分析

1) 学力調査

1 教科ごとの傾向	3
2 教科ごとの平均正答率と平均正答数	3
3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率	4
4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	4
5 各教科に関する調査結果及び問題と改善のポイント	
国語A(知識)	5
国語B(活用)	7
算数A(知識)	11
算数B(活用)	13

2) 学習状況調査(生活習慣・学習環境等)

生活習慣	15
家庭学習	16
自尊意識、規範意識、学校生活	17
国語の学習	18
算数の学習	19

中学校の分析

1) 学力調査

1 教科ごとの傾向	21
2 教科ごとの平均正答率と平均正答数	21
3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率	22
4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	22
5 各教科に関する調査結果及び問題と改善のポイント	
国語A(知識)	23
国語B(活用)	25
数学A(知識)	29
数学B(活用)	31

2) 学習状況調査(生活習慣・学習環境等)

生活習慣	35
家庭学習	36
自尊意識、規範意識、学校生活	37
国語の学習	38
数学の学習	39

学力・生活習慣の向上に向けた取組

教育委員会による学校への支援	41
学校の取組	41

当別町における平成26年度 全国学力・学習状況調査の実施概要

本調査結果は、「平成26年度全国学力・学習状況調査結果」に基づき、本町の小・中学校における現時点の明らかにすることができる学力及び学習状況について、調査結果の概要を掲載したものです。

- 1 調査の目的**
- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - イ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 - ウ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

- 2 調査の対象学年**
- 小学校第6学年
 - 中学校第3学年

3 調査の内容

教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A、算数・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B、算数・数学B】
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等にかかわる内容

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況に関する調査

4 調査期日

平成26年4月22日（火）

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	対象児童生徒数	参加児童生徒数	参加率
小学校	3	145人	141人	97.24%
中学校	3	174人	165人	94.83%
合計	6	319人	306人	95.92%

参加児童生徒数は、対象となる児童生徒数のうち、当日体調不良等により参加できなかった児童生徒を除く人数

小学校の分析

1) 学力調査

1 教科ごとの傾向

【国語】

- 国語 A・Bともに全国より下回る結果となり、国語 Bでは「話すこと・聞くこと」の領域で全道とほぼ同様の結果になりました。
- 国語 A・Bの「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で、昨年度から比較して全国平均に近づいてきている。少しずつではあるが、読書活動の成果が表れてきている様子がうかがえます。
- 国語 Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、全国を上回る問題もあるなど、故事成語の意味の使い方が理解できてきているものと推察されます。
- 記述式の問題については、国語 Bの活用の問題で全国より低く、「書くこと」の領域が低い結果がみられました。

【算数】

- 算数 Aでは「数と計算」「量と測定」の領域で基礎・基本の定着が見られるものの、算数 A・Bともに昨年度の全国との差を縮めることはできませんでした。
- 算数 Bの「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域においては、全国との差があるものの、「数と計算」の領域では、昨年度より向上しております。
- 算数 Bでは、「無回答率」が多い状況が見られます。問題を読み、算数を応用し計算によって答えを導くまでに至っていない様子がうかがえます。

2 教科ごとの平均正答率と平均正答数

	国語 A		国語 B		算数 A		算数 B	
	平均正答率	平均正答数 と問題数	平均正答率	平均正答数 と問題数	平均正答率	平均正答数 と問題数	平均正答率	平均正答数 と問題数
当別町	68.1	(10.2/15)	49.4	(4.9/10)	73.1	(12.4/17)	49.3	(6.4/13)
北海道(公立)	71.8	(10.8/15)	52.9	(5.3/10)	75.8	(12.9/17)	55.2	(7.2/13)
石狩管内	71.7	(10.8/15)	54.1	(5.4/10)	76.3	(13.0/17)	57.0	(7.4/13)
全国(公立)	72.9	(10.9/15)	55.5	(5.5/10)	78.1	(13.3/17)	58.2	(7.6/13)
全国との差	4.8	(-0.7/15)	6.1	(-0.6/10)	5.0	(-0.9 /17)	8.9	(-1.2/13)

()内の平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載

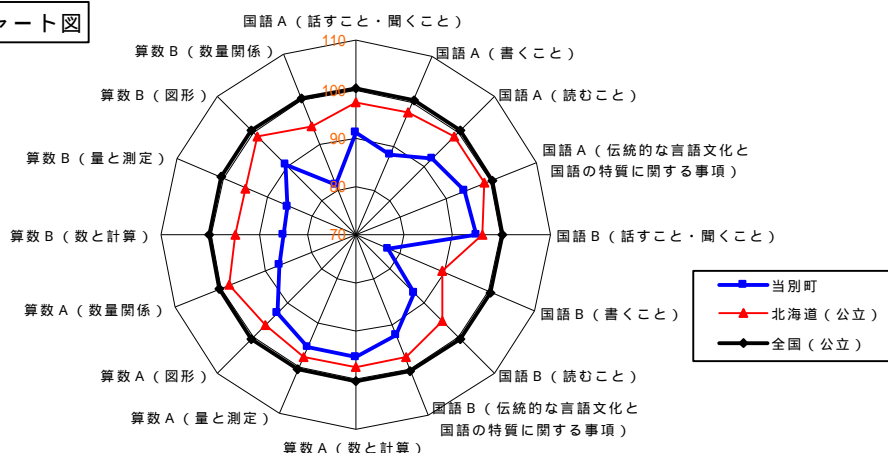
平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語 A、国語 B、算数 A、算数 B ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。

3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率

教科の領域別に全国を100とした場合の状況をレーダーチャートで示したものです。
 (当別町児童の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

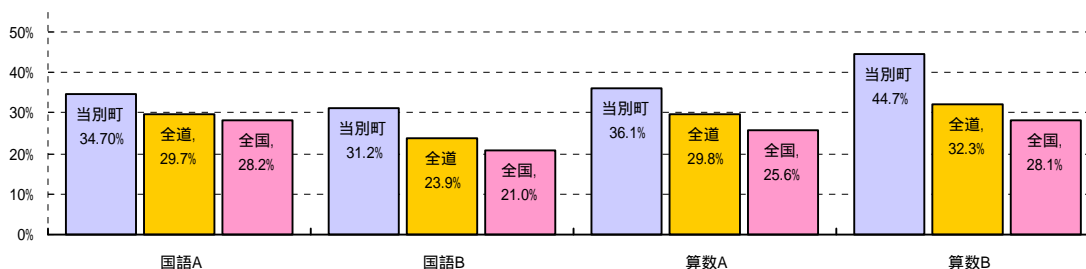
	国語A (話すこと・聞くこと)	国語A (書くこと)	国語A (読むこと)	国語A (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	国語B (話すこと・聞くこと)	国語B (書くこと)	国語B (読むこと)	国語B (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	算数A (数と計算)	算数A (量と測定)	算数A (図形)	算数A (数量関係)	算数B (数と計算)	算数B (量と測定)	算数B (図形)	算数B (数量関係)
問題数	1/15	3/15	2/15	12/15	3/10	3/10	7/10	2/10	8/17	3/17	4/17	3/17	8/13	5/13	1/13	5/13
当別町	91.2	87.8	92.1	93.8	94.7	77.0	86.9	92.4	95.2	95.2	92.6	87.0	84.8	85.1	90.7	81.3
北海道(公立)	97.4	97.1	98.7	98.5	96.1	89.2	95.1	97.4	97.3	97.1	96.1	97.9	94.8	94.9	98.3	93.8
全国(公立)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

全教科チャート図



4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	国語A			国語B			算数A			算数B		
	当別町	全道	全国	当別町	全道	全国	当別町	全道	全国	当別町	全道	全国
	34.70%	29.70%	28.20%	31.20%	23.90%	21.00%	36.10%	29.80%	25.60%	44.70%	32.30%	28.10%
全国との差	15問中9問以下		10問中3問以下		17問中11問以下		13問中5問以下					
	6.5	多い	10.2	多い	10.5	多い	16.6	多い				



5 各教科に関する調査結果および問題と改善ポイント

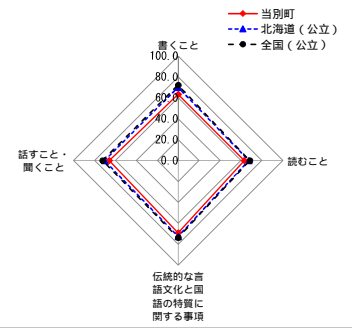
小学校 [国語A：主として知識]

国語Aの基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題に関しては、当別町児童の平均正答率は68.1%で、全国平均の72.9%より4.8ポイント下回り、全道平均の71.8%より3.7ポイント下回る結果となった。また昨年度の全国と当別町の差は-2.3ポイントで、2.5ポイント広がる結果になった。

集計結果

対象児童数		当別町教育委員会 141	北海道(公立) 42,951	全国(公立) 1,080,663	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		15	68.1	71.8	72.9
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	66.0	70.5	72.4
	書くこと	3	63.4	70.1	72.2
	読むこと	2	63.1	67.6	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	69.1	72.6	73.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	1	66.0	70.5	72.4
	書く能力	3	63.4	70.1	72.2
	読む能力	2	63.1	67.6	68.5
問題形式	言語についての知識・理解・技能	12	69.1	72.6	73.7
	選択式	7	64.3	66.0	66.6
	短答式	8	71.4	76.9	78.5
	記述式	0			

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町
1-1(1)	漢字を読む(道路の標識を見る)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			5-6(1)ウ(ア)							85.1	90.7	91.7	(5.00)	1.8	1.7
1-1(2)	漢字を読む(街灯がつく)				5-6(1)ウ(ア)							80.9	86.5	87.0	(9.90)	2.9	2.5
1-1(3)	漢字を読む(塾いよく走り出す)				5-6(1)ウ(ア)							74.5	77.3	74.4	(6.40)	1.4	1.5
1-2(1)	漢字を書く(料理をのせたざるを運ぶ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く			5-6(1)ウ(ア)							91.5	97.3	97.8	(5.70)	0.9	0.6
1-2(2)	漢字を書く(勝利をいねう)				5-6(1)ウ(ア)							52.5	52.9	59.3	(14.90)	9.1	6.8
1-2(3)	漢字を書く(かぜをよほする)				5-6(1)ウ(ア)							67.4	75.0	77.4	9.9	8.3	7.2
2-1	故事成語の使い方として適切なものを選択する(五十歩百歩)	故事成語の意味と使い方を理解する			3-4(1)ア(イ)							67.4	61.6	55.8	1.4	0.3	0.3
2-2	故事成語の使い方として適切なものを選択する(百聞は一見にしかず)				3-4(1)ア(イ)							53.9	48.1	49.9	1.4	0.5	0.5
3	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	情景描写の効果を捉える	3-4オ		5-6(1)ウ(ク)							55.3	56.2	58.7	2.1	0.2	0.2
4	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える		5-6ウ								70.9	72.4	71.7	2.1	0.2	0.3
5	物語の一部に入る適切な人物の名前を書く	物語の登場人物の相互関係を捉える		5-6エ								55.3	62.9	65.3	2.1	0.6	0.5
6-1	「～たり、…たり」という表現に直して書く	複数の事柄を並列の関係で書く	5-6オ		5-6(1)イ(キ)							63.8	72.8	74.9	(11.30)	6.1	5.7
6-2	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する	仮定の表現として、適切なものを捉える	5-6オ		5-6(1)イ(キ)							70.9	81.4	83.1	(6.40)	1.9	2.0
7	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	話合いの観点に基づいて情報を関係付ける	5-6ア									66.0	70.5	72.4	(6.40)	1.8	2.1
8	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する(はかる)	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する			3-4(1)イ(カ)							66.0	71.8	74.3	(7.10)	2.4	2.7

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは全国より3ポイント以上上回っているもの

平均正答率が全国以上の設問数	3 / 15問
平均正答率が全道以上の設問数	2 / 15問
無回答率が全国より3ポイント以上上回っている設問数	9 / 15問

全国と比べて正答率が高かった問題

設問番号 2一

出題の趣旨 「故事成語の意味と使い方を理解することができるかどうかをみる」

問題 「適切なものを選択する」

2

次の一と二の故事成語の使い方として最もふさわしいものを、1から3までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

一 「五十歩百歩」

1 姉と私は、残りのケーキをどちらが食べるのかでもめていた。すると、母が私たちを注意して、もめごとに関係のない弟に食べさせた。弟にとっては、五十歩百歩だ。

2 私たちの学級では、学年で行われる学級対抗ドッジボール大会での優勝をめざして、ほかの学級よりもずっと前から練習を始めた。だから、優勝できたのは、五十歩百歩だ。

3 山口さんと川島さんが、学校で出された宿題を五回忘れたのか、六回忘れたのかで言い争っていた。このようなこと言い争う二人は、五十歩百歩だ。

二 「百聞は一見にしかず」

1 友達野村さんは、先生の説明のはじめの部分を聞くと、結論まで見通すことができるという。百聞は一見にしかずといえる人だ。

2 私は、夕日が美しいことで有名な海岸を訪れ、その美しさを自分の目で見て実感することができた。まさに百聞は一見にしかずだ。

3 私は、人からいろいろと細かく注意されることがいやだ。しかし、友達に百聞は一見にしかずだと助言されたので、そのことをよく考えてみようと思う。

< 正答 > 3

当別町の正答率 67.4%
全国平均より 11.6 ポイント上回っている。

学習指導の改善ポイント

故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で起こる出来事や、その様子を故事成語を用いて表すことは重要である。長い間使われてきた故事成語に興味をもち、その意味を調べて先人の知恵や教訓、機知に触れることができるように指導することが大切である。その上で、実生活の中で意図的に活用する機会を設けるなどして、計画的に指導することが重要である。

例えば、朝の会、帰りの会などを利用して、故事成語やことわざや慣用句を使った1分間スピーチに継続して取り組むなどといった取り組みも効果的である。

全国と比べて正答率が低かった問題

設問番号 6二

出題の趣旨 「文や文章の構成を理解し、適切な表現にして書くことができるかどうかをみる」

問題 「文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する」

6

黒木さんは、次の「き」の出来事」についての文章を書いたあと、読み返して、適切な表現にしようとしています。あの一と二の問いに答えましよう。

【き」の出来事】

わたしは、きのうの夜、母に注意されたのに、おそくまでテレビを見たり、音楽を聞きました。そのため、夜にねむれなくなってしまいました。このうちにならったのは、母の注意に耳をかたむけていたらよかったと反省しました。

二 「き」の部は、そのあとに続く「母の注意に耳をかたむけていたらよかったと反省しました」という内容に対して、適切な表現ではありません。「き」の部を書き直すときに使うことができる言葉を、1から5までの中から三つ選んで、その番号を書きましよう。

(解答の順序は、問いません。)

1 なるならば

2 なるし

3 なるのに

4 なるのだったら

5 なるのであれば

< 正答 > 1・4・5

当別町の正答率 70.9%
全国平均より 12.2 ポイント下回っている。

学習指導の改善ポイント

文や文章の構成を整えて書くためには、語句と語句との係り方や照応の仕方に気付き、文と文とのつながりの明確さを意識することが重要である。そのためには、語句の意味を正しく捉えることや、接続語の役割について理解することができるよう指導することが大切である。

また、児童自身が間違いなどを正したり、よりよい表現に書き直したりする推敲についても十分な指導を行う必要がある。その際、下書きと推敲後の文書を比べるなどの工夫をすることによって、筋道の整った文書になったことを実感できるような指導方法も効果的である。

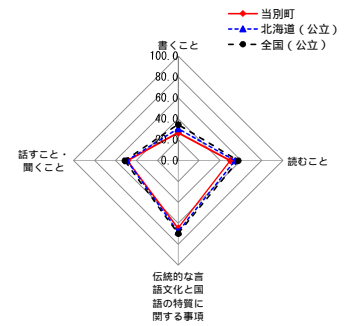
小学校 [国語B：主として活用]

国語Bの基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題に関しては、当別町児童の平均正答率は49.4%で、全国平均の55.5%より6.1ポイント下回り、全道平均の52.9%より3.5ポイント下回る結果となった。また昨年度の全国と当別町の差は-7.3ポイントで、1.2ポイント縮めることが出来た。

集計結果

対象児童数		当別町教育委員会 141	北海道(公立) 42,939	全国(公立) 1,080,444	
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		10	49.4	52.9	55.5
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	48.5	49.2	51.2
	書くこと	3	26.5	30.7	34.4
	読むこと	7	49.8	54.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	64.5	68.0	69.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	26.5	30.7	34.4
	話す・聞く能力	3	48.5	49.2	51.2
	書く能力	3	26.5	30.7	34.4
	読む能力	7	49.8	54.5	57.3
問題形式	言語についての知識・理解・技能	2	64.5	68.0	69.8
	選択式	4	55.7	60.4	62.1
	短答式	3	64.1	65.1	67.7
	記述式	3	26.5	30.7	34.4

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率を百分率で表示。学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町
1一	司会④の発言の内容をまとめて書く	目的に応じて、話合いの観点を整理する	5-6オ									66.7	62.5	65.2	8.5	9.4	7.9
1二	林さん⑤の質問の狙いとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	5-6エ									53.9	58.1	60.2	6.4	3.9	3.5
1三	大野さん⑥の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	立場を明確にして、質問や意見を述べる	5-6エ	5-6ウ								24.8	27.0	28.3	(12.10)	6.2	5.0
2一	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く	付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える			5-6ウ							63.8	68.3	71.9	(17.00)	10.3	8.2
2二	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く		5-6ウ	5-6ウ							19.9	22.5	26.9	(11.30)	9.6	7.4
2三	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む			5-6イ							61.7	64.4	66.0	5.0	4.8	4.3
3一(1)	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える			5-6エ	5-6(1)イ(2)						77.3	79.4	80.4	5.0	4.6	4.4
3一(2)	【詩2】の表現の特徴として適切なものを選択する	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える			5-6エ	5-6(1)イ(2)						51.8	56.7	59.2	7.8	5.7	5.5
3二	【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する	詩の解釈における着眼点の違いを捉える			3-4オ							39.7	47.6	48.5	(24.80)	20.8	19.8
3三	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く		5-6ウ	5-6エ							34.8	42.7	48.1	(35.50)	30.6	26.0

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
無回答率の()書きは全国より3ポイント以上上回っているもの

平均正答率が全国以上の設問数	1 / 10問
平均正答率が全道以上の設問数	1 / 10問
無回答率が全国より3ポイント以上上回っている設問数	5 / 10問

全国と比べて正答率が高かった問題

設問番号 1ー

出題の趣旨 「目的に応じて、話し合いの観点を整理することができるかどうかをみる」

問題 「発言の内容をまとめて書く」

手書きの立場からパソコンを使う立場への質問や意見

「記念に残る卒業文集のあり方」について

司会
あなた
大野さんの発言に対して、アが 있습니다。

手書きの立場の主張

丸山
丸山
谷
丸山
林

丸山さんの発言に対して意見があります。全員がパソコンを使いこなせるわけではないので、作業に時間がかかってしまい、完成がおそくなります。パソコンを使うよりも、手書きの方がスムーズに取り組みるので、手書きがよいと思います。

パソコンを使う立場の主張

大野
丸山

私もパソコンを使う方がよいと思います。記念に残る卒業文集なので、読みやすくつくるべきだと考えます。手書きだった五年の卒業文集には読みにくいところがありました。パソコンであれば、文字が上手かどうかに関係なく、文字の形や大きさがそろるので、読みやすくなります。

【討論会の様子】①・②・③・④・⑤の発言の内容は、あどの問いと関係があります。

司会
これから討論会を始めます。今回の議題は、「卒業文集はパソコンを使ってつくるか、手書きにするか」ということです。ではまず、パソコンを使う立場からの主張をお願いします。

丸山
① はい、ぼくは、パソコンを使う方がよいと思います。手書きは、文字を書いたり消したりするのがめんどうだからです。パソコンであれば、何度でも簡単に書き直すことができますので、作業に取り組みやすいと思います。

大野
② 私もパソコンを使う方がよいと思います。記念に残る卒業文集なので、読みやすくつくるべきだと考えます。手書きだった五年の卒業文集には読みにくいところがありました。パソコンであれば、文字が上手かどうかに関係なく、文字の形や大きさがそろるので、読みやすくなります。

司会
次に、手書きの立場からの主張をお願いします。

丸山
③ はい、ぼくは、手書きの方がよいと思います。六年生のときの手書きの文字をそのまま残した方が、記念に残る卒業文集になると思います。

平川
④ 私も手書きの方がよいと思います。学校のパソコンは、利用できる場所や時間が限られています。手書きであれば、場所や時間を気にせず、自分のペースで作業を進めることができますので、取り組みやすいと思います。

司会
ここで、一度整理をします。それぞれの主張に共通する観点が二つあります。一つ目は、丸山さんと平川さんから出された「『記念に残る卒業文集のあり方』」についてです。二つ目は、大野さんと開口さんから出された「『記念に残る卒業文集のあり方』」についてです。では最初に、手書きの立場からパソコンを使う立場に対して、二つの観点をそれぞれについての質問や意見を出してもらいます。まず、一つ目の「ア」から、質問や意見をお願いします。

丸山
⑤ 丸山さんの発言に対して質問があります。私はパソコンの操作が得意ではありません。パソコンを使って文章を書くことに慣れていない人は、学級に何人ぐらいいると考えていますか。

丸山
はい、学級の半分ぐらいの人は、使うことに慣れていないと思います。

谷
丸山さんの発言に対して意見があります。全員がパソコンを使いこなせるわけではないので、作業に時間がかかってしまい、完成がおそくなります。パソコンを使うよりも、手書きの方がスムーズに取り組みるので、手書きがよいと思います。

丸山
確かに、パソコンを上手に使えない人は時間がかかると思います。そうであれば、使い慣れていない人が、そうでない人に教まながら取り組むこともできると思います。

林
丸山さんの発言に対して質問があります。私はパソコンの操作が得意ではありません。パソコンを使って文章を書くことに慣れていない人は、学級に何人ぐらいいると考えていますか。

ア

ー【討論会の様子】のなかの司会④の「ア」の中には、丸山さん①と平川さん④の発言に共通する観点が入ります。ふさわしい内容を、二人の発言に共通する言葉を使って、十二字以内で書きましょう。

< 正答例 > 作業への取り組みやすさ (11字)

当別町の正答率 66.7%
全国平均より 1.5 ポイント上回っている。

学習指導の改善ポイント

本設問では、司会が討論を進める上で重要な観点を整理している場面を設定している。ここでは、「パソコンを使う立場」と「手書きの立場」それぞれの立場の主張の共通点を捉え、話し合いの観点を簡潔に整理して書くことが求められている。

討論を円滑に進めるためには、司会はその果たす役割を理解し、違う立場から出されたそれぞれの意見を整理することが重要である。一方、参加者は司会の果たす役割を理解した上で協動的な態度で討論を進めることが大切である。

議論をまとめる司会の能力を高めるためには、司会の具体的な話し方やまとめ方を学習する場を設けることが考えられる。その際、モデルとなる討論会の様子を動画で視聴したり話し合いの後に司会の進行についてよかった点や改善点等を交流しあったりするように指導することが効果的である。また、多くの児童が司会を経験することも重要である。

全国と比べて正答率が低かった問題

設問番号 3三

出題の趣旨 「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことができるかどうかをみる」

問題 「比べて読んで考えたことを書く」

3

北川さんの学級では、まど・みちおがたんぼぼを題材にして書いた「詩1」と「詩2」を比べて読み、考えたことについてグループに分かれて交流するにしました。この二つの詩と「グループでの交流の様子」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【詩1】 タンポポ

だれでも タンポポをすきです
 どうぶつたちも 大すきです
 でも どうぶつたちは
 タンポポの ことを
 タンポポとは いいません
 めいめい こう よんでいます

イヌ …… ワンフオフォ
 ウシ …… ターモーモ
 ハト …… ポッポン
 カラス …… ターター
 デンデンムシ …… タンタンポ
 タニシ …… タンココ
 カエル …… ポボタ
 ナメクジ …… タヌーベ
 テントウムシ …… タンボンタン
 ヘビ …… タン
 チョウチョウ …… ポボポボ

【詩2】 たんぼぼさんが よんだ

たんぼぼさんが よんだ
 どんな こえで?
 はなのこえと アブのこえと
 なんのこえでも みんな
 あーら ひよーら ぶーら しょ
 では かけていきましよう

たんぼぼさんが よんだ
 どっちの ほうで?
 あっちからと こっちからと
 どっちからでも みんな
 あーら ひよーら ぶーら しょ
 では かけていきましよう

たんぼぼさんが よんだ
 だれを だれを?
 わたしたちと ちようちよたちと
 だれも かれも みんな
 あーら ひよーら ぶーら しょ
 では かけていきましよう




【詩1】と【詩2】は、まど・みちお「まど・みちお 全詩集」による。

【グループでの交流の様子】

北川 まど・みちおさんの二つの詩を読んで、考えたことをみんなで交流しよう。
 まず、【詩1】について話し合おう。

竹内 この詩は、二つの連があって、第二連にはいろいろな動物が出てくるわね。
 中西 そうね。「タンポポ」のことを、イヌは「ワンフオフォ」、ウシは「ター
 モーモ」と表現しているところは、それぞれの動物たちの「ア」を
 「タンポポ」という言葉のひびきに重ねているようだね。

山田 確かに、そうだね。でも、ナメクジの「タヌーベ」という表現は、少し
 ちがうよね。体のどくちようや動きを表しているのかな。

竹内 そうか。ところで、ヘビは「タンポポ」のことを、どうして「タン」と呼ぶのかな。
 だったら、「タンニョロ」と呼ぶかもしれないわ。

(中略)



山田 次に、【詩2】について考えてみよう。この詩は、三つの連があって、それぞれの連の中で
 くり返し使われている言葉があるね。

竹内 そうね。「あーら ひよーら ぶーら しょ」という言葉は、第一連では「イ」呼び、
 第二連では「ウ」呼んでいるね。第三連では「エ」呼びかけていることが分かるわ。
 それにしても、この言葉はだれの声なのかしら。

北川 題名にもあるように、「たんぼぼさん」が呼んでいる声だと思っな。

中西 私は、「たんぼぼさん」の呼びかけに対する「みんな」の返事の声だと思っな。

山田 そうかな。ほくは、「たんぼぼさん」と「みんな」が会話をしている声だと思っよ。のぼす
 音に注目して音読すると、「たんぼぼさん」が「あーら ひよーら ぶーら」とリズムに
 乗って呼びかけている感じがするんだ。それに対して、「みんな」が声をそろえて、「しょ」
 と返事しているのではないかな。

(中略)

北川 それでは、二つの詩を比べることにしよう。どちらの詩も、たんぼぼと周りの生き物との
 仲のよい様子が感じられるね。【詩1】は、「タンポポ」のことが好きだという動物たちの気
 持ちは伝わってくるね。

山田 【詩2】は、「では かけていきましよう」という言葉から、同じように仲のよい様子が
 分かるね。

(中略)

中西 この二つの詩以外にも、「たんぼぼ」を題材にした詩はあるのかしら。ほかの詩も調べて
 みたくなつたわ。
 全員 そうだね。調べてみよう。

※「連」…詩の中で、行を空けて分けているまどまりのこと。

三 あなたは、【詩1】と【詩2】を比べて読んで、どのようなことを考えましたか。次の条件に合
 せて書きましよう。

(条件)

- 詩の内容や表現の仕方などについて、共通点やちがう点を取り上げて書くこと。
- 「たんぼぼ」と「まど・みちお」の両方の言葉を使って書くこと。
- 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

- < 正答例 1 > 二つの詩は、まど・みちおさんの植物や動物を愛する気持ちが伝わってくるという点で共通していると考えました。たんぼぼや動物たちの仲のよい様子を想像することができて、心が温まり、やさしい気持ちになりました。(100字)
- < 正答例 2 > まど・みちおさんは【詩2】では同じ言葉をくり返し表現しているに対して、【詩1】ではそれぞれちがうたんぼぼのよび方を表現しています。詩の表現にはいろいろな方法があって、おもしろいと思いました。(97字)
- < 正答例 3 > 二つの詩では、「たんぼぼ」という言葉が【詩1】ではカタカナで書かれており、【詩2】ではひらがなで書かれている点がちがいます。まど・みちおさんは、文字の使い方を変えて、くふうしているのだなと思いました。(100字)

当別町の正答率 34.8%、全国平均より 13.3 ポイント下回っている。

学習指導の改善ポイント

当別町の児童は「たんぼぼ」、「まど・みちお」という二つの言葉を使うことができていない割合と、どちらか一方のみを使っている解答が、全国・全道より多い。回答として特定の言葉を使うという条件を満たして書くことはできていない。また、無回答が全国の25.8%に対し、当別町の児童は35.5%と無回答率が多い結果となった。

本設問では、複数の詩を比べて読み、自分の考えを書くためには、表現の工夫や詩の捉え方を観点にしてそれぞれの詩の特徴を理解し、自分なりに解釈をすることができるように指導することが大切である。そのためには、複数の詩の共通点や相違点を明らかにし、自分なりの解釈や考え、詩を読むときの観点を基にして明確にして書くことが大切である。

学習指導に当たっては、詩の解釈について交流し、発表することによって一人ひとりの感じ方に違いあることを理解しながら、自分の考えを広げ、深めていくことが大切である。

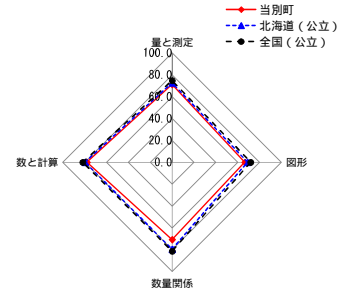
小学校 [算数A：主として知識]

算数Aの基本的な知識・技能が身に付いているどうかをみる問題に関しては、当別町児童の平均正答率は73.1%で、全国平均の78.1%より5ポイント下回り、全道平均の75.8%より2.7ポイント下回る結果となった。また昨年度の全国と当別町の差は-0.9ポイントで、4.1ポイント広がる結果になった。

集計結果

対象児童数		当別町教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)	
		141	42,949	1,080,657	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	全体	17	73.1	75.8	78.1
	数と計算	8	77.9	79.6	81.8
	量と測定	3	71.2	72.6	74.8
	図形	4	66.5	69.0	71.8
	数量関係	3	70.7	79.6	81.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	8	83.6	86.2	87.9
	数量や図形についての知識・理解	9	63.8	66.6	69.5
問題形式	選択式	8	63.8	67.8	70.7
	短答式	9	81.3	83.0	84.8
	記述式	0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。平均正答率を百分率で表示、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)
1(1)	46 + 57 を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	2A(2)ア										92.8	96.8	96.9	0.0	0.0	0.1	
1(2)	903 × 6 を計算する	被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる	3A(3)イ										95.0	92.9	92.8	0.7	0.2	0.2	
1(3)	9 - 0.8 を計算する	小数第1位までの減法の計算をすることができる	3A(3)イ										81.6	82.4	83.8	1.4	0.9	0.8	
1(4)	2 ÷ 5 を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	4A(5)ウ										84.4	90.4	91.8	2.8	0.9	0.9	
1(5)	100 - 20 × 4 を計算する	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる			4D(2)ア								65.2	79.2	80.9	0.7	0.4	0.5	
1(6)	1/3 + 2/5 を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	5A(4)オ										90.1	87.0	90.6	1.4	1.4	1.1	
2(1)	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量) × (割合) になることを理解している	5A(3)ア										55.3	68.5	71.9	1.4	0.3	0.3	
2(2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量) × (割合) になることを理解している	5A(3)ア										46.8	49.2	54.1	1.4	0.4	0.4	
3	示された分数の中から、1/2より大きいものを選ぶ	分数の相等及び大小について理解している	5A(4)ア 5A(4)イ										71.8	70.0	72.5	2.1	0.7	0.6	
4(1)	8m ² に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることができる	6B(4)ア										78.0	80.5	82.3	2.1	0.8	0.7	
4(2)	8m ² に16人いるAの部屋について、1m ² 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	6B(4)ア										60.3	58.0	60.8	(6.40)	4.0	3.4	
5(1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる	8C(1)エ										81.8	80.8	83.9	4.3	1.6	1.5	
5(2)	1cm ³ の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	体積の単位(1cm ³)と測定について理解している	8B(2)ア 8B(2)イ										75.2	79.1	81.1	(5.70)	2.2	1.8	
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している	4C(1)ア 4C(1)イ										46.1	47.2	52.0	2.8	0.7	0.6	
7	縦5cm、横1cm、高さ4cmの直方体の面①になる四角形を選ぶ	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している	2C(1)ウ 4C(2)ア										66.0	67.7	69.4	2.8	0.7	0.7	
8	答えが100 - 20 × 4の式で求められる問題を選ぶ	四則の混合した式の意味について理解している			4D(2)ア								74.5	79.5	81.0	3.5	1.1	0.9	
9	正五角形の1辺の長さをcm、まわりの長さをcmとしたときの、との関係を正しく表している式を選ぶ	二つの数量の関係を、などの記号を用いて表すことができる	8C(1)ア 8C(1)イ 8C(2)ウ										72.3	80.0	82.0	3.5	1.5	1.2	

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは全国より3ポイント以上上回っているもの

平均正答率が全国以上の設問数	2 / 17 問
平均正答率が全道以上の設問数	6 / 17 問
無回答率が全国より3ポイント以上上回っている設問数	2 / 10 問

全国と比べて正答率が高かった問題

設問番号 1(2)

出題の趣旨 「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができるかどうかをみる。」

問題 「計算する」

(2) 903×6

<正答> 5418

当別町の正答率 95.0%、全国平均より 2.2 ポイント上回っている。

学習指導の改善ポイント

計算を用いる能力には、基礎的・基本的な計算の技能に習熟することや、計算を生活や学習に活用することなどが含まれる。これまでに児童が身に付けてきた計算の技能は、生活や学習で必要となる計算の基になるものと共に、より複雑な計算を進めるための基になるものである。

指導に当たっては、計算の技能の習熟や維持を図るために、児童の学習状況をみながら適度の繰り返し練習の機会を設けることが大切である。また、当該学年以降の学年においても必要に応じて繰り返し（チャレンジテスト参加やドリル学習等）指導し、基礎的・基本的な計算の技能の習熟や維持を図ることが大切である。

全国と比べて正答率が低かった問題

設問番号 2(1)

出題の趣旨 「割合が1より大きい場合、比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることを理解しているかどうかをみる。」

問題 「示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ（80 cm）の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ」

2

下の図のように、白いテープの長さをもとにして、赤いテープと青いテープの長さを表しました。

(1) 赤いテープの長さを求める式を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

1 $80 + 0.2$
 2 $80 - 0.2$
 3 80×1.2
 4 $80 \div 1.2$

<正答> 3

当別町の正答率 55.3%、
 全国平均より 16.6 ポイント下回っている。

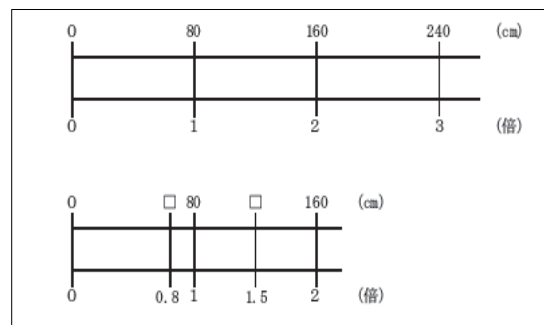
学習指導の改善ポイント

場面から数量の関係性を捉え、乗法を適切に用いることが出来るようにする。割合（倍）が1より小さく、比較量が基準量より小さい場面では、比較量を求めるために乗法ではなく、除法を用いる誤りが多く見られる。

そのため、乗法の意味についての理解を深め、このような場面でも乗法が用いられることを的確に判断できることが大切である。

指導に当たっては、割合（倍）が整数である場合の計算の考え方を基にして、情報意味を拡張し、理解を深めることが大切である。

例えば、右図のように、数直線を用いて 80 cm を 1 としたときに、2 倍、3 倍にあたる長さを乗法で求められることを基に 1.5 倍や 0.8 倍にあたる長さが、それぞれ 80×1.5 、 80×0.8 で求められることを説明する活動を取り入れることが考えられる。



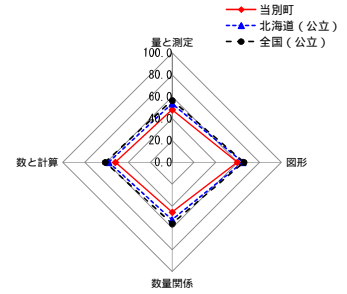
小学校 [算数B：主として活用]

算数Bの基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題に関しては、当別町児童の平均正答率は49.3%で、全国平均の58.2%より8.9ポイント下回り、全道平均の55.2%より5.9ポイント下回る結果となった。また昨年度の全国と当別町の差は-5.6ポイントで、3.3ポイント広がる結果となった。

集計結果

対象児童数		当別町教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)	
		141	42,930	1,080,442	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		13	49.3	55.2	58.2
学習指導要領の領域	数と計算	8	52.0	58.1	61.3
	量と測定	5	48.1	53.6	56.5
	図形	1	59.6	64.6	65.7
	数量関係	5	45.7	52.7	56.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	6	37.0	43.2	47.8
	数量や図形についての技能	4	69.3	74.5	76.2
	数量や図形についての知識・理解	3	47.0	53.4	54.8
問題形式	選択式	4	58.0	63.5	64.7
	短答式	4	56.0	59.8	62.2
	記述式	5	36.9	44.8	49.7

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)
1(1)	示されたかけ算の中で同じ数字が並ぶものを選ぶ	示された場面から計算の結果の見直しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる	3A(3)ア										90.8	93.8	94.6	0.7	0.3	0.3	
1(2)	二人の説明を基に、37×24の積が888になることを書く	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる	2A(1)エ	3A(3)ア	40(3)ア								44.7	49.1	55.2	(15.60)	7.8	6.0	
2(1)	6・7月の水の使用量1500m ³ は、プールに入る水の量250m ³ の何倍かを求める式と答えを書く	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	4A(3)イエ	5B(2)ア									75.2	79.9	82.5	3.5	3.4	3.0	
2(2)	1日盛りを50m ³ として学校の水の使用量の棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く	最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる	5B(2)ア	30(3)ア									53.9	64.5	69.1	5.0	3.2	2.6	
2(3)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の1/4より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる	5B(2)ア	20(3)イ	30(3)ア	40(4)イ	50(4)						54.6	61.8	61.5	3.5	1.4	1.2	
3(1)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる	3B(3)イ										37.6	35.1	38.6	(9.20)	4.6	3.4	
3(2)	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図全てを選ぶ	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	1A(1)キ	2A(1)オ									45.4	54.2	56.7	4.3	2.3	1.8	
3(3)	示された分け方でスプーンを分けるとき、残りの30人にスプーンを分けられるかどうかを選び、そのわけを書く	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる	2B(2)ア	5B(4)ア									19.1	26.5	30.6	4.3	2.3	1.9	
4(1)	アのリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見いだし、それを基に小節目を求めることができる	1A(1)イ	40(1)ア									51.8	59.7	62.2	(5.00)	2.1	1.7	
4(2)	二人ののリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	5A(1)イ										43.3	55.1	60.5	(21.30)	15.2	12.1	
5(1)	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる		2C(1)イ									59.6	64.6	65.7	7.1	6.1	5.2	
5(2)	使いやすい箸の長さの目安を基に、一あた半の長さを表している図を選ぶ	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる	5A(3)ア										41.1	44.1	46.1	(7.10)	4.3	3.5	
5(3)	妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる	5A(3)イ	50(3)									23.4	28.5	33.0	(22.00)	16.7	13.1	

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは全国より3ポイント以上上回っているもの

平均正答率が全国以上の設問数	0 / 13問	
平均正答率が全道以上の設問数	1 / 13問	
無回答率が全国より3ポイント以上上回っている設問数		6 / 13問

全国と比べて正答率が高かった問題

設問番号 1(1)

出題の趣旨 「示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができるかどうかをみる。」

問題 「計算と選択」

(1) の中に「7」、「8」、「9」を入れて計算し、積に同じ数字が並ぶかどうかを調べます。積に同じ数字が並ぶ計算を、下の1から3までのの中から1つ選んで、その番号を書きなさい。

1	2	3
$\begin{array}{r} 37 \\ \times 7 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 37 \\ \times 8 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 37 \\ \times 9 \\ \hline \end{array}$

< 正答 > 3

当別町の正答率 90.8%、全国平均より 3.8 ポイント下回っている。

学習指導の改善ポイント

計算の結果の見通しをもつことは、大きな誤りを防ぐ上で大切である。例えば、本設問では、乗数が3のときに積が111になり、乗数が6のときに積が222になることを元にする、乗数がさらに3増えて9の場合には積が333になるという見通しをもつことができる。そして、この見通しに基づいて、積が333になるということを実際に 37×9 の計算をすることで確かめることができる。

指導に当たっては、低学年のうちから、見通しをもつことについて繰り返し指導することが大切である。調査結果から、相当数の児童ができていますが、方法や結果を見通したり、振り返り実習(、チャレンジテスト参加やドリル学習等)など児童の実態に応じて指導する必要がある。

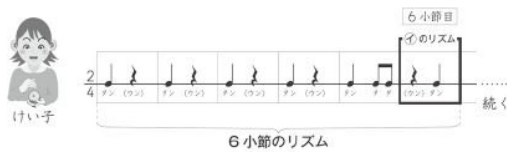
全国と比べて正答率が低かった問題

設問番号 4(2)

出題の趣旨 「二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できるかどうかをみる。」

問題 「二人のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く」

(2) 次に、けい子さんも加わって、まさるさんと演奏することになります。
 けい子さんは、カスタネットでの6小節のリズムを何回かくり返します。
 けい子さんの6小節目とまさるさんの4小節目は、同じリズムです。
 これを、㊦のリズムとします。



けい子さんとまさるさんは、同時に演奏を始めました。
 すると、12小節目に2人の㊦のリズムが重なりました。
 2人の㊦のリズムが重なる12小節目の「12」は、どのような数ですか。
 言葉と「4」と「6」の数を使って書きましょう。

< 正答例 > 12は、4と6の最小公倍数です。

当別町の正答率 43.3%、全国平均より 17.2 ポイント下回っている。

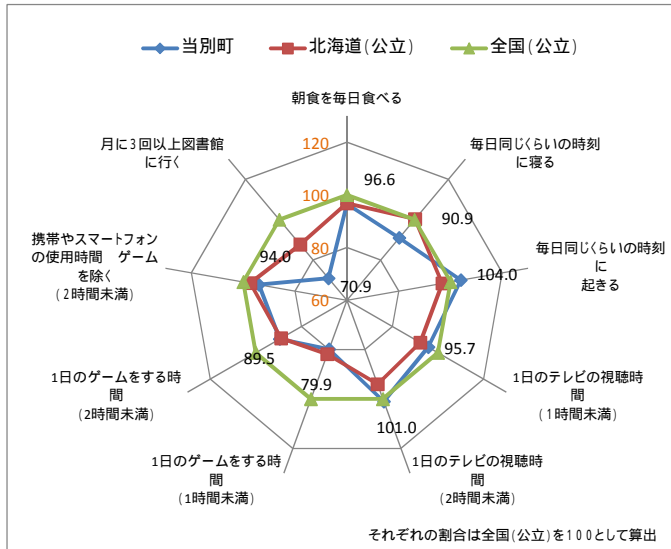
学習指導の改善ポイント

日常生活の事象を算数の内容と関連付け、学習した用語を用いて的確に表現できるようにすることは、算数と日常生活との関わりについて興味・関心を高める上で大切である。

指導に当たっては、例えば、設問(2)を用いて、児童の様々な表現を算数の用語を用いた表現に洗練する活動が考えられる。具体的には「12は4小節を3回して、6小節を2回すると重なるところです」といった表現を、算数で学習した用語を基に洗練する場面を設け、最小公倍数等の用語を用いて表現し直すことが考えられる。このような活動を通して、算数の用語を用いると事象を簡潔に表現できるよさに気づくことが大切である。

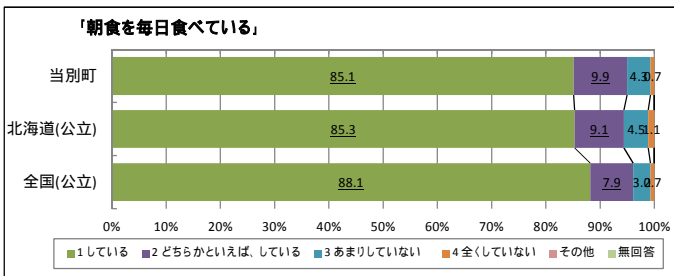
2) 学習状況調査(生活習慣・学習環境等)

小学校:生活習慣

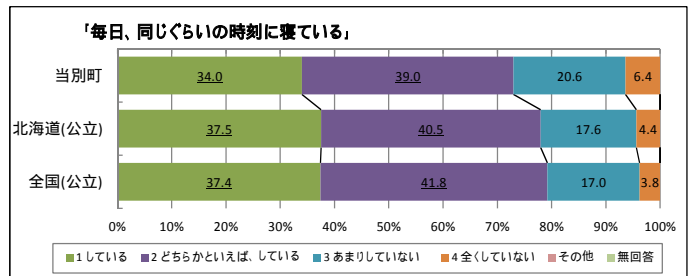


【生活習慣】

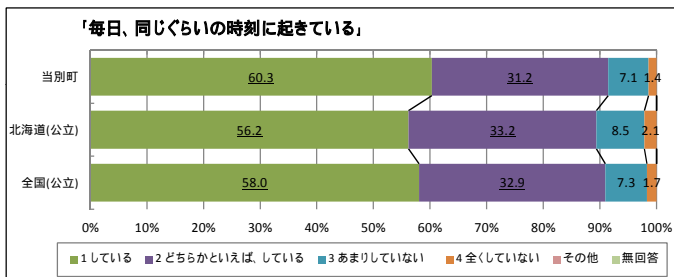
- 朝食を食べる習慣が微増した。就寝時刻のばらつきが多くなったものの、起床時刻は安定度を増しており、「早寝早起き朝ごはん」型の生活習慣は定着している。
- TVやDVD・ビデオなどの視聴は減少傾向にあり、全国平均とほぼ同様となった。しかしTVゲームや携帯式のゲーム時間は増加し、さらに携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットが使用状況の大幅な増加している。小学生の携帯電話・スマートフォンの所有率が飛躍的に多くなっている。
- 児童の図書館の利用率の減少がみられ、携帯電話やスマートフォンなどの使用が多く、放課後や休日での「家庭での過ごし方」が、変容をしてきている可能性があり、注視する必要がある。



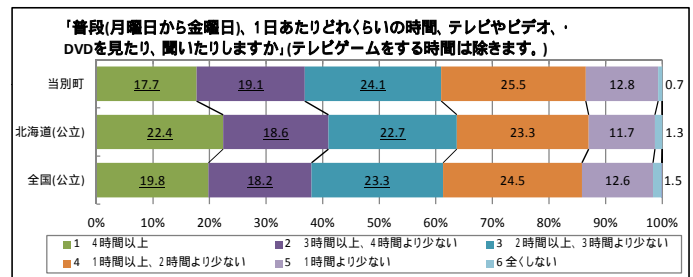
【生活】「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は95%で、昨年度の調査より2ポイント多い。



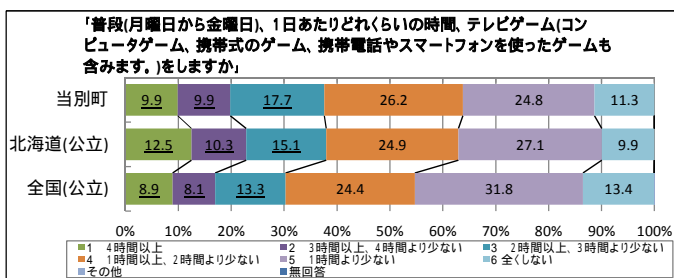
【生活】「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は73%で、全国より6.2ポイント低く、昨年度とほぼ同様の数値となっている。



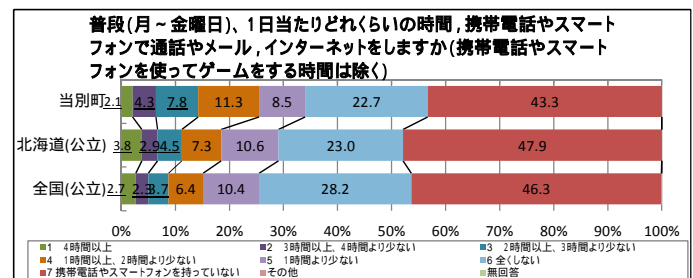
【生活】「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は91.5%で、全国とほぼ同様で、昨年度の調査より3.7ポイント多い。



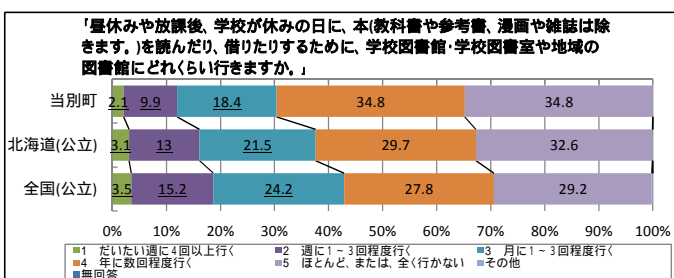
【生活】2時間以上と答えた児童の割合は60.9%で、全国とほぼ同様である。



【生活】2時間以上と答えた児童の割合は37.5%で、全国より7.2ポイント多く、昨年度も全国より3.8ポイント多い。

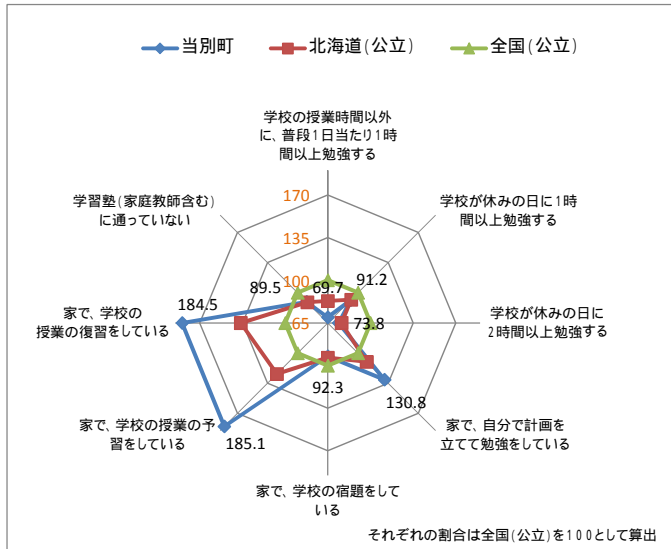


【生活】2時間以上と答えた児童の割合は14.2%で、全国より5.5ポイント多い。



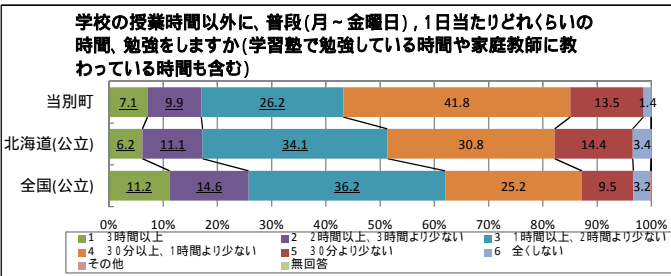
【生活】「月に1～3回程度」以上行くと答えた児童の割合は、30.4%で、全国より12.5ポイントも低く、昨年度の調査より8.6ポイント減少した。

小学校:家庭学習

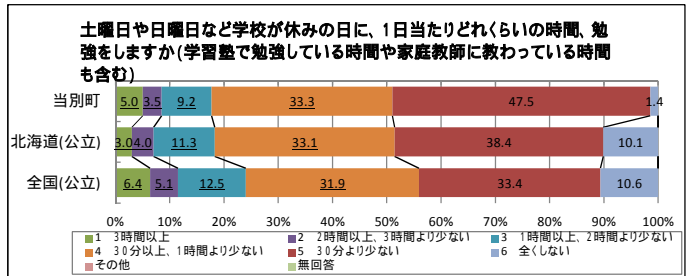


【家庭学習】

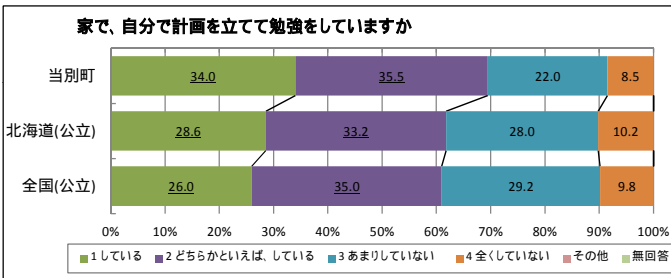
1. 「普段の日」や「休みの日」に家庭学習に1時間以上取り組んでいる児童数は大幅に減少している。しかし、取り組んでいる内容では、「計画を立ててやっている」は全国より18.5ポイント上回り、「宿題をやる」は昨年度より9.5ポイント増加している。
2. 家庭での学習内容は、「予習」は全国より17.8ポイント上回り、「復習」は全国より14.8ポイント上回る結果となった。
3. 家庭学習の質や量について改善を図る必要がある。



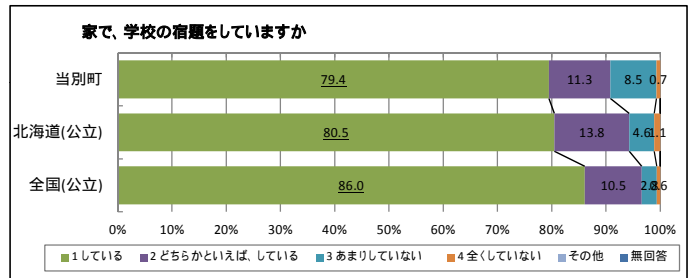
【家庭学習】1時間以上していると答えた児童の割合は43.2%で、全国より18.8ポイントも低く、昨年度の調査より21ポイントも少ない。



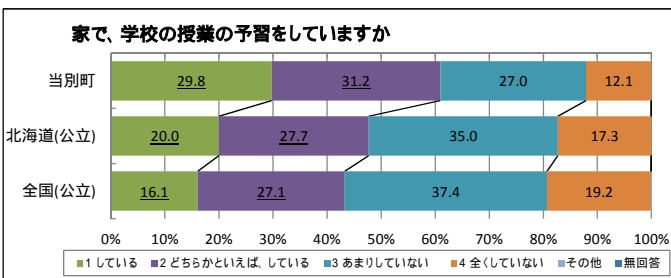
【家庭学習】1時間以上していると答えた児童の割合は51.0%で、全国より4.9ポイント低く、昨年度の調査より13.1ポイントも少ない。



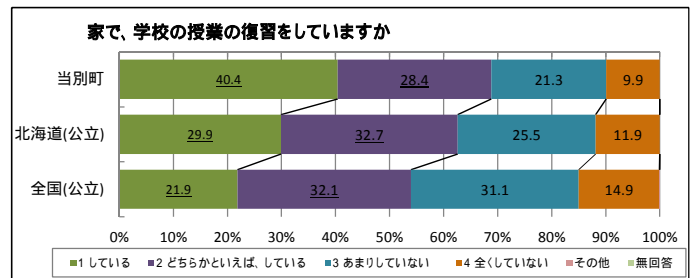
【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は69.5%で全国より18.5ポイントも高く、昨年度の調査より8ポイント高い。



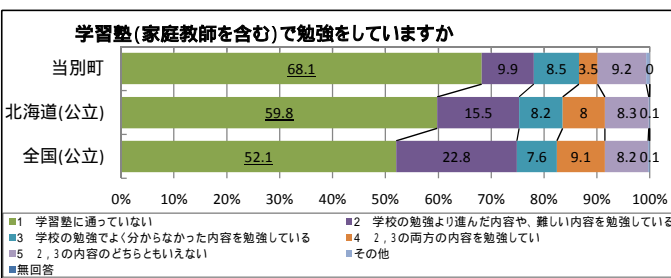
【家庭学習】「している」と答えた児童の割合は79.4%で、全国より6.6ポイント低く、昨年度の調査より9.5ポイント高い。



【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は61.0%で、全国より17.8ポイント高く、昨年度の調査より10.3ポイント高い。

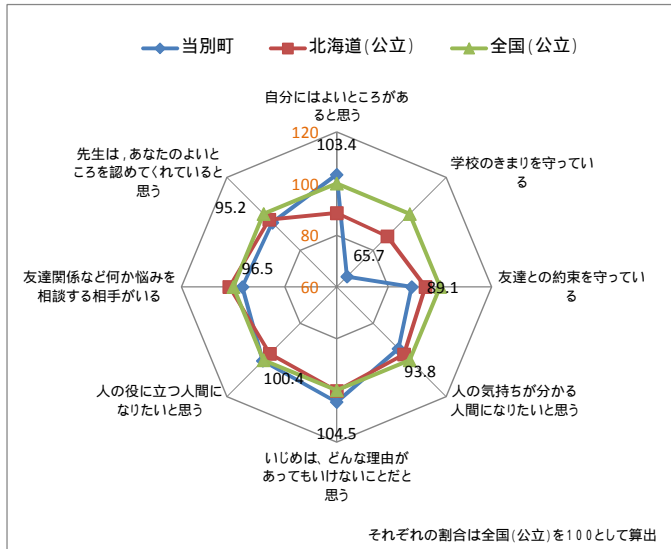


【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は68.8%で、全国より14.8ポイント高く、昨年度の調査より7.4ポイント低い。



【家庭学習】塾に通っていない割合が61.8%で、全国より16ポイント高い。

小学校:自尊意識、規範意識、学校生活

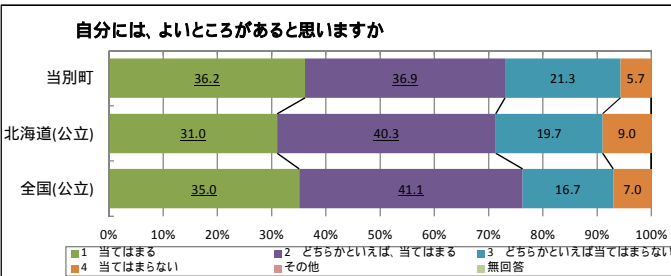


【自尊意識、規範意識】

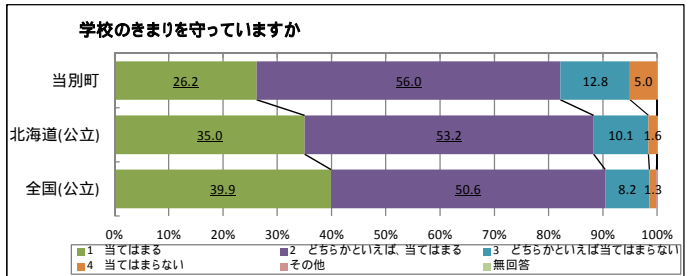
- 『学校の決まりを守っていますか』が、全国との比較においても昨年度の本町との比較においても8ポイント以上低下している。さらに『決まりを守らない』が全国全道では、1パーセント台なのにに対し、本町の児童の割合は5%と多い。
- 学校・家庭・地域が一体となって児童に分かりやすく丁寧に指導して行くことが、違法意識の育成につながる。教育活動全般や地域・関係機関の協力を得て、取組を強化していく必要がある。

【学校生活】

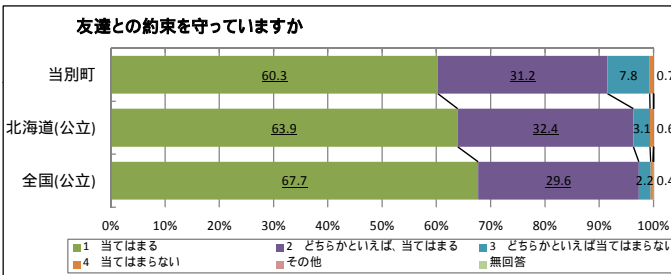
- 学校生活を過ごす上で、出てきた悩みを『誰にも相談しない』が23.4%と全国と比べても突出して多いことが心配される。
- 『先生はあなたの良いところを認めていてくれる』は全国より3.8ポイント低い。自尊意識が生まれるような教師の関わり、配慮が必要。また児童が学級・学校を安心して過ごせる場所として認識されているかを点検し、温かい学級の雰囲気醸成することが必要と思われる。



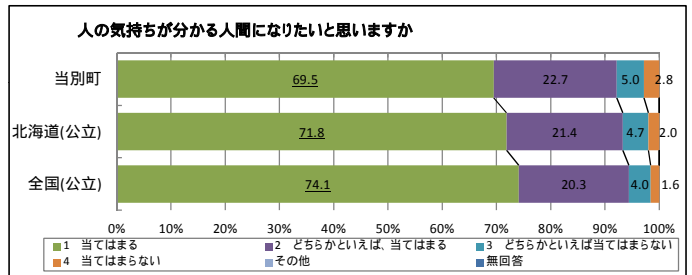
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は73.1%で全国より3ポイント低く、昨年度の調査より4.5ポイント低い。



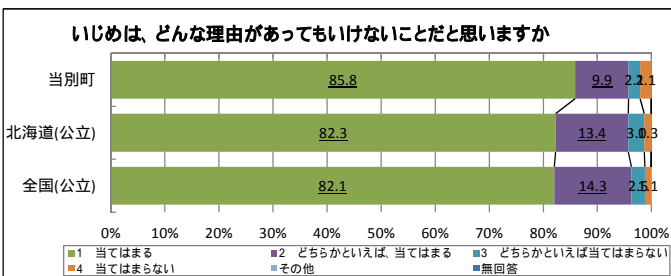
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は、82.2%で全国より8.3ポイント低く、昨年度の調査より8.8ポイント低い。「決まりを守らない」が5%あり、全国全道の1パーセント台から見ると突出している。



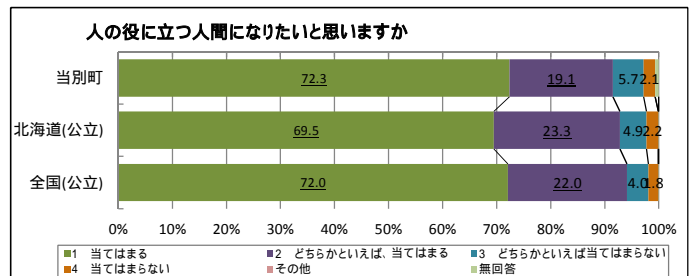
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は91.5%で、全国より5.8ポイント低い。



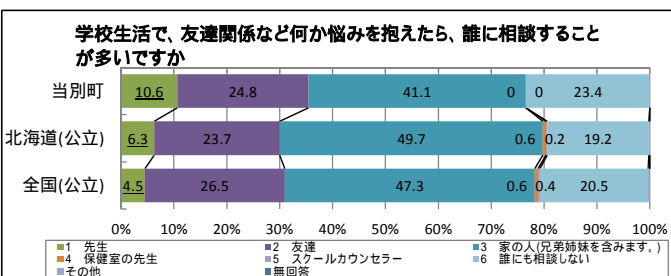
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は92.2%で、全国より2.2ポイント低く、昨年度の調査より3.3ポイント低い。



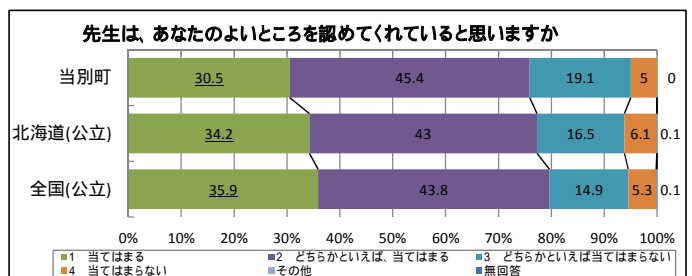
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は95.7%で全国と同様で、昨年度の調査より2.2ポイント多い。



【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は91.4%で全国より2.6ポイント低く、昨年度の調査より7.4ポイント多い。

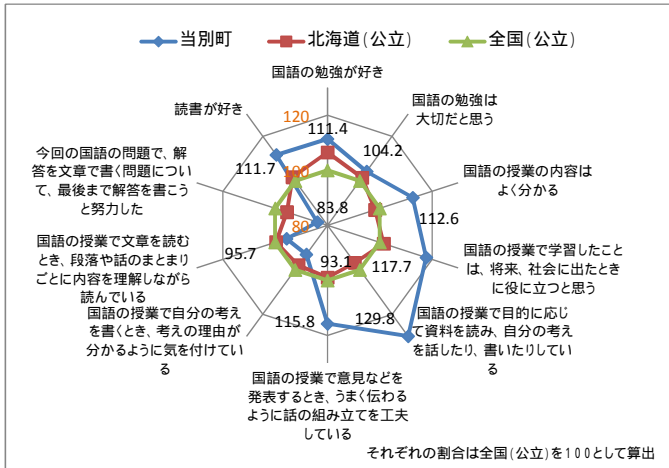


【学校生活】「家の人(兄弟姉妹を含む)」が全国と共に突出して多いが、「誰にも相談しない」が23.4%と多い。



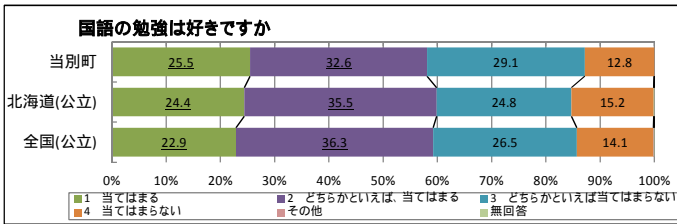
【学校生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は75.9%で、全国より3.8ポイント低い。

小学校:国語の学習

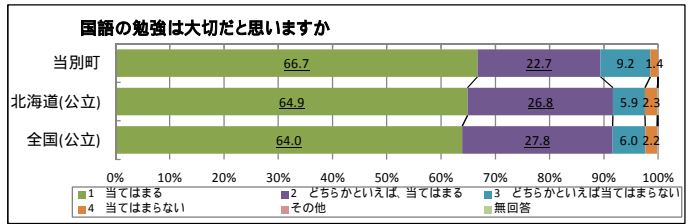


【国語】

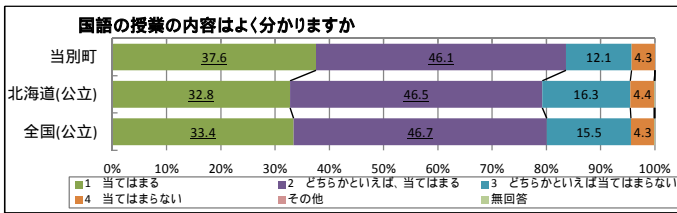
- 「国語は良く分かる」は全国ならびに昨年度の調査を上回る結果となったが、学力調査の得点には結びついてきていない。
- 「最後まで解答を書く」と努力した」が全国より大幅に低く、途中で諦めてしまう傾向が強いといえる。昨年度も同傾向であり、各学校で対策を立て、取り組んできているところであるが、まだ成果となって現れていない。
- 「読書が好き」と答えた児童は、全国より高い結果となったが、「授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいる」と答えた児童の割合が低い状況である。内容を理解しないままの読書活動になっていないか、注意する必要がある。



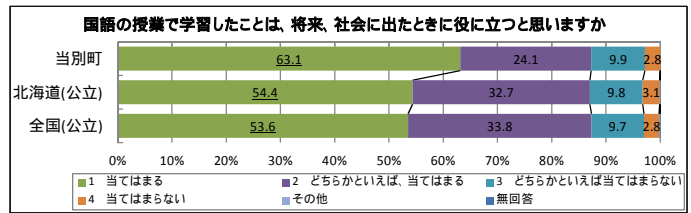
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は58.1%で、全国とほぼ同様で、昨年度の調査より4.7ポイント低い。



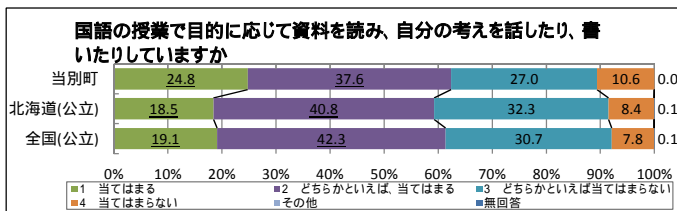
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は89.4%で、全国より2.4ポイント低く、昨年度の調査より4.2ポイント低い。



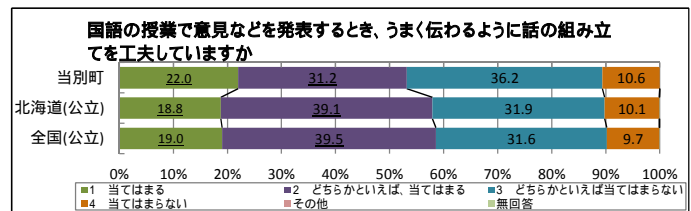
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は83.7%で全国より3.6ポイント高く、昨年度の調査より2.9ポイント高い。



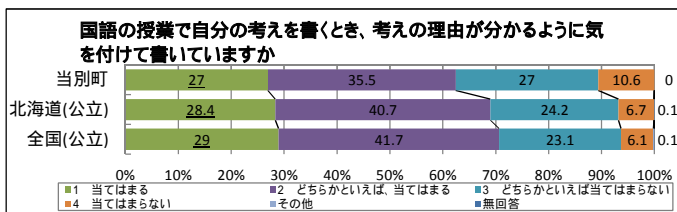
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は87.2%で、全国と同様である。



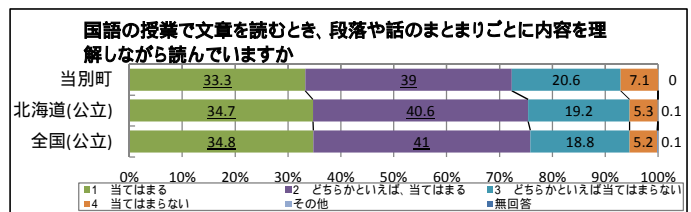
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は53.2%で、62.4%で、全国とほぼ同様である。昨年度の調査より6.0ポイント高い。



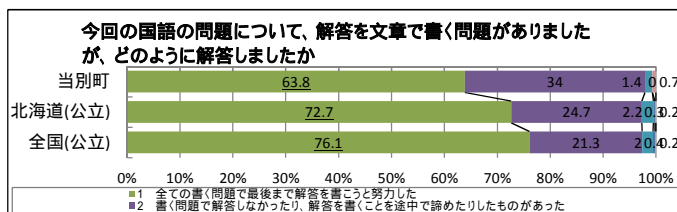
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は53.2%で、全国より5.3ポイント低く、昨年度の調査より1.3ポイント高い。



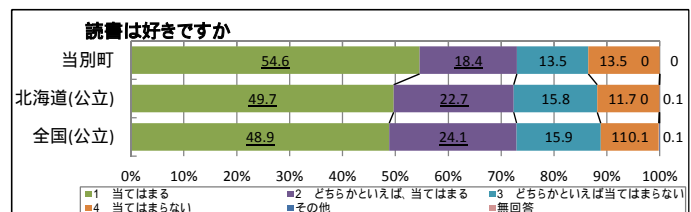
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は62.5%で、全国より8.2ポイント低く、昨年度の調査より8.0ポイント低い。



【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は72.3%で、全国より3.5ポイント低く、昨年度の調査より7.2ポイント低い。

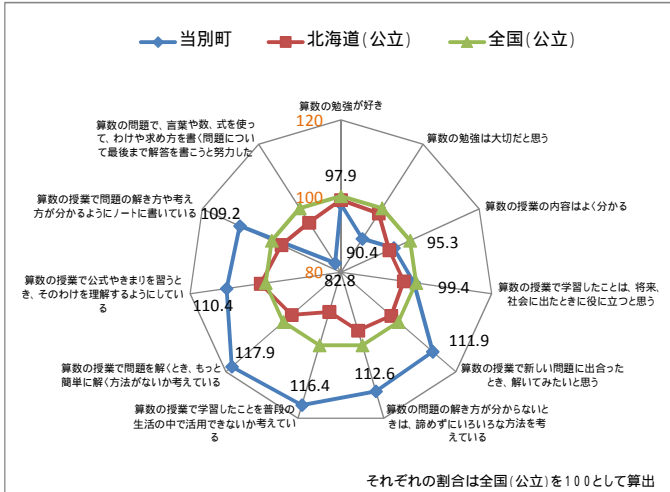


【国語】「最後まで解答を書く」と努力した」が63.8%で、全国より12.3ポイント低く、昨年度の調査とほぼ同様の結果になった。



【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は73.0%で、全国と同様で、昨年度の調査と同様の結果になった。

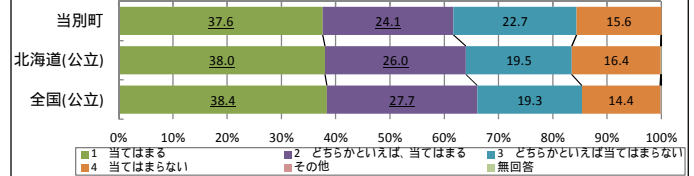
小学校:算数の学習



【算数】

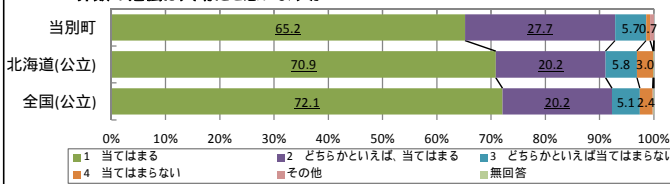
- 『新しい問題に出会ったときに解いてみたい』という意欲は全国と同程度の結果となった。しかし、『言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのよう解答しましたか』の問いに『途中で諦めたりしたものがあった』と回答した児童が多く、『粘り強さ』が弱く、諦めてしまう傾向が見受けられる。学力調査における無回答率が多い結果につながっていると推察される。
- 分けるために記載しているノートに不十分さが見受けられ、ノート指導を1年生から6年生まで学年段階に応じて、系統立てた指導の継続が必要と思われる。

算数の勉強は好きですか



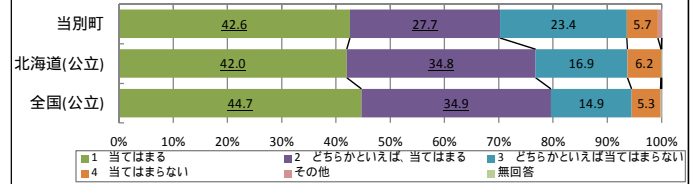
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は61.7%で、全国より4.4ポイント低く、昨年度の調査より6.3ポイント低い。

算数の勉強は大切だと思いますか



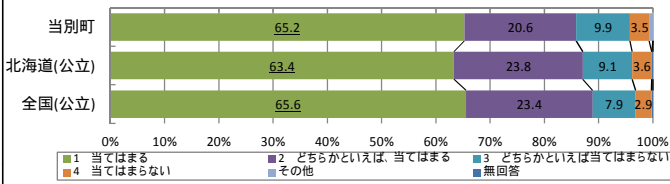
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は92.9%で、ほぼ全国と同様であり、昨年度の調査とほぼ同様である。

算数の授業の内容はよく分かりますか



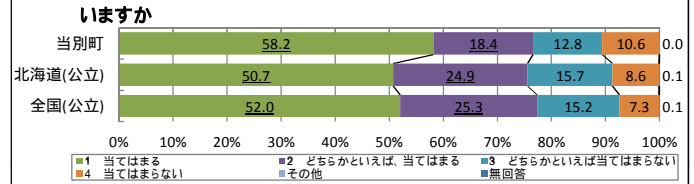
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は70.3%で、全国より9.3ポイント低く、昨年度の調査より8.5ポイント低い。

算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



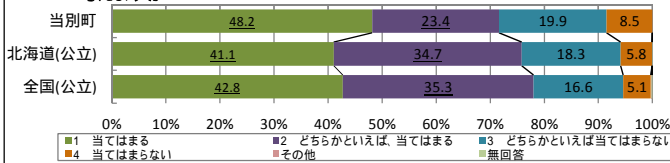
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は85.8%で、全国より3.2ポイント低い、昨年度の調査より1.2ポイント低い。

算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか



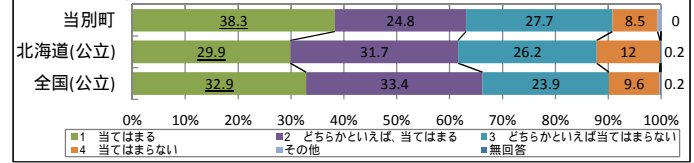
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は76.6%で、全国とほぼ同様であり、昨年度の調査より6.7ポイント高い。

算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



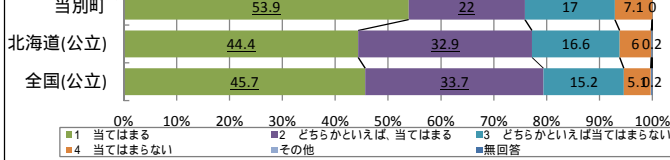
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は71.6%で、全国より6.5ポイント低く、昨年度の調査より4.7ポイント低い。

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



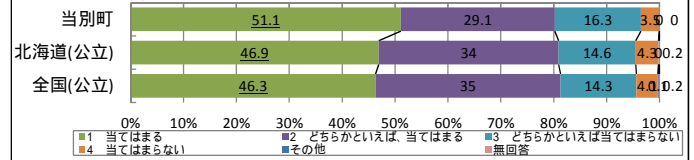
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は63.1%で、全国より3.2ポイント低い。

算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



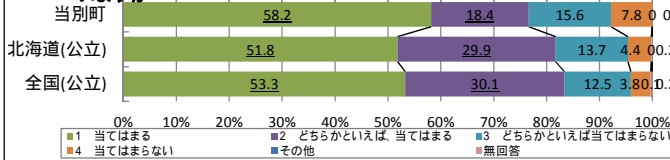
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は75.9%で、全国より3.5ポイント低く、昨年度の調査より7.4ポイント低い。

算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



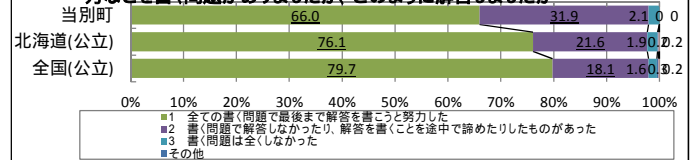
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は80.2%で、全国とほぼ同様であり、昨年度の調査より3.1ポイント低い。

算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は76.6%で、全国より6.8ポイント低く、昨年度の調査より8.0ポイント低い。

今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか



【算数】『最後まで解答を書こうと努力した』が66.0%で、全国より13.7ポイント低く、昨年度の調査より5.8ポイント低い。

中学校の分析

1) 学力調査

1 教科ごとの傾向

【国語】

- 国語 A 及び国語 B については、全国平均を上回る結果となりました。
- 国語 A では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で、全国を上回る結果となり、特に、漢字の読み書き等の基礎を大切に取り組んできた成果が現れたと分析されます。
- 国語 B はすべての領域で全国を上回る結果となりました。国語 A と同様「書くこと」に顕著な成果が現れています。

【数学】

- 数学 A は全国平均を下回り、数学 B は全国平均を上回る結果となりました。
- 数学 A では、昨年度より全国との差が広がる結果となり、特に「関数」の領域での落ち込みがみられております。
- 数学 B では「資料の活用」を除く領域において、全国平均より高い状況がみられ、「数と式」の領域では、全国より 4 . 6 ポイント高い結果となりました。

2 教科ごとの平均正答率と平均正答数

	国語 A		国語 B		数学 A		数学 B	
	平均正答率	平均正答数 と問題数	平均正答率	平均正答数 と問題数	平均正答率	平均正答数 と問題数	平均正答率	平均正答数 と問題数
当別町	80.9	(25.9/32)	51.6	(4.6/9)	65.6	(23.6/36)	60.7	(9.1/15)
北海道(公立)	79.4	(25.4/32)	49.9	(4.5/9)	66.0	(23.8/36)	59.4	(8.9/15)
石狩管内	80.3	(25.7/32)	51.9	(4.7/9)	67.5	(24.3/36)	61.7	(9.3/15)
全国(公立)	79.4	(25.4/32)	51.0	(4.6/9)	67.4	(24.3/36)	59.8	(9.0/15)
全国との差	+1.5	(+0.5/32)	+0.6	(+0.0/9)	1.8	(-0.7/36)	+0.9	(+0.1/15)

()内の平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載

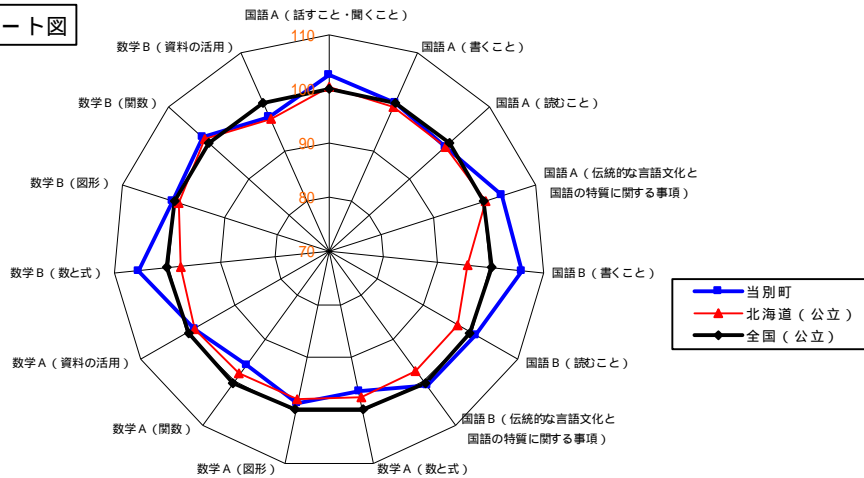
平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語 A、国語 B、数学 A、数学 B ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。

3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率

教科の領域別に全国を100とした場合の状況をレーダーチャートで示したものです。
(当別町生徒の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

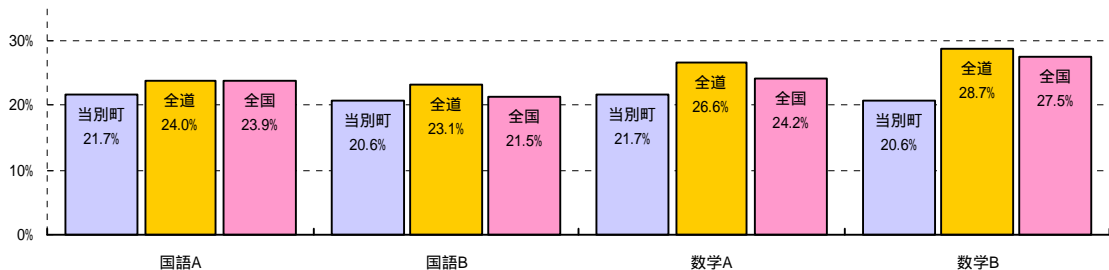
	国語A(話すこと・聞くこと)	国語A(書くこと)	国語A(読むこと)	国語A(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	国語B(書くこと)	国語B(読むこと)	国語B(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	数学A(数と式)	数学A(図形)	数学A(関数)	数学A(資料の活用)	数学B(数と式)	数学B(図形)	数学B(関数)	数学B(資料の活用)
問題数	4/32	6/32	5/32	17/32	3/9	8/9	4/9	12/36	12/36	8/36	4/36	3/15	5/15	5/15	2/15
当別町	102.5	100.1	98.8	103.4	105.9	101.2	100.9	96.6	98.8	95.9	98.5	105.4	100.5	101.6	97.1
北海道(公立)	100.3	99.4	98.9	100.4	95.6	97.4	97.4	97.8	98.0	98.1	98.6	97.4	99.3	100.9	96.8
全国(公立)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

全教科チャート図



4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	国語A			国語B			数学A			数学B		
	当別町	全道	全国	当別町	全道	全国	当別町	全道	全国	当別町	全道	全国
	21.7%	24.0%	23.9%	20.6%	23.1%	21.5%	21.7%	26.6%	24.2%	20.6%	28.7%	27.5%
	32問中22問以下			9問中2問以下			36問中18問以下			15問中6問以下		
全国との差	2.2	少ない		0.9	少ない		2.5	少ない		6.5	少ない	



5 各教科に関する調査結果および問題と改善ポイント

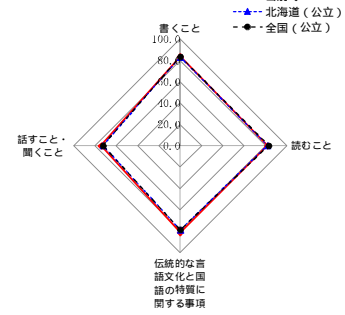
中学校 [国語A：主として知識]

国語Aの基本的な知識・技能が身に付いているどうかをみる問題に関しては、当別町生徒の平均正答率は80.9%で、全国・全道平均の79.4%より1.5ポイント上回る結果となった。また昨年度の全国と当別町の差は-2.3ポイントで、3.8ポイント上昇し、全国を上回る結果となった。

集計結果

対象生徒数		当別町教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)	
		165	41,769	1,017,965	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域等	全体	32	80.8	79.4	79.4
	話すこと・聞くこと	4	74.1	72.5	72.3
	書くこと	6	83.5	82.9	83.4
	読むこと	5	81.9	82.0	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	81.4	79.0	78.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	74.1	72.5	72.3
	書く能力	6	83.5	82.9	83.4
	読む能力	5	81.9	82.0	82.9
	言語についての知識・理解・技能	17	81.4	79.0	78.7
問題形式	選択式	20	83.4	82.9	83.2
	短答式	12	78.9	73.5	73.1
	記述式	0			

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	解・語技に能つての知識・理解	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)			
1-1	フリップの効果の説明したのとして適切なものを選択する	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す	2ウ														81.8	78.1	78.6	0.0	0.1	0.2	
1-2	報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す	1エ														77.0	80.6	80.3	0.0	0.1	0.2	
2-1	主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する	心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える	2ウ														89.1	91.3	90.9	0.0	0.1	0.2	
2-2	仲直りができてうれい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉を書き換える	2エ														81.2	79.0	79.8	10.9	9.8	9.2	
3-1	主人公が「素直りが出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	1ウ														89.1	91.2	91.9	0.0	0.1	0.2	
3-2	「ひとしくおれの方を見た」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	1ア														82.4	80.6	79.8	0.0	0.1	0.2	
3-3	生徒の落書きを見たときの主人公の心情を説明したのとして適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	2イ														77.0	77.3	79.1	0.0	0.3	0.4	
4-1	ウェブページの項目として適切なものを選択する	集めた材料を分類するなどして整理する	1イ														83.8	92.6	92.6	0.6	0.2	0.4	
4-2	主語を書き換えて行事の記録を書き直す	叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える	1エ														81.8	81.2	80.5	5.5	3.0	3.1	
5-1	「動物」と「外界のもの」との組合せとして適切なものを選択する	抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する	2ア														78.2	76.4	78.2	0.0	0.3	0.4	
5-2	「次々に簡略化していった」理由を説明したのとして適切なものを選択する	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する	2イ														83.0	84.4	85.6	0.0	0.3	0.5	
6-1	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	2オ														83.0	55.7	54.3	4.8	5.9	5.9	
6-2	話合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する	話合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	1オ														74.5	75.5	76.0	0.0	1.1	1.2	
7-1	文章を書くために使った付箋として適切なものを選択する	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる	2ア														85.6	83.7	84.6	0.0	0.4	0.6	
7-2	文章の構成を変える理由として適切なものを選択する	書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す	2オ														69.7	69.8	72.1	0.0	0.8	1.0	
8-1	漢字を書く(地域の人をシヨウタイする)	文脈に即して漢字を正しく書く			2(1)ウ(イ)												83.3	53.2	57.6	9.7	14.9	12.3	
8-2	漢字を書く(円のハシケイを求める)				2(1)ウ(イ)													80.6	57.4	59.5	2.4	3.2	3.3
8-3	漢字を書く(計画を行動にウツす)				2(1)ウ(イ)													83.0	75.0	73.6	6.1	11.3	10.9
8-2-1	漢字を読む(アウの獲魚を放流する)	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1)ウ(ア)													81.2	77.5	77.0	4.2	6.8	7.7
8-2-2	漢字を読む(このホールは畳敷き効果が良い)				2(1)ウ(ア)													82.7	92.4	88.6	0.6	2.8	4.1
8-2-3	漢字を読む(新記録に接む)				2(1)ウ(ア)													94.5	95.8	95.2	0.6	0.9	1.3
8-3ア	適切な語句を選択する(よい結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			1(1)イ(ウ)													89.4	57.2	59.2	0.0	0.7	1.0
8-3イ	適切な語句を選択する(先のことは分からないが、よりあきらまなければならぬ)				1(1)イ(ウ)													87.6	96.4	96.2	0.0	0.4	0.6
8-3ウ	適切な語句を選択する(地域の伝統的な文化を継承する)				2(1)イ(イ)													83.0	80.0	80.8	0.0	0.6	0.8
8-3エ	適切な語句を選択する(笑い声が満ちている家には幸運が訪れることを、「笑う四には福来るといおう)				1(1)イ(ウ)													89.7	90.1	89.5	0.0	0.5	0.7
8-3オ	適切な語句を選択する(お客様、私が校内をご案内します)				2(1)イ(ウ)													86.8	93.0	93.0	0.0	0.6	0.8
8-3カ	適切な語句を選択する(あの人は、崖刀直入にものを言う)				1(1)イ(ウ)													83.3	88.5	86.3	0.0	0.8	1.1
8-3キ	適切な語句を選択する(忙しい兄は、休日にのびのびと羽を伸ばす)			1(1)イ(ウ)													83.3	93.0	92.1	0.6	0.8	1.0	
8-4	用語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く(英気を養う)	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く			2(1)イ(イ)												84.2	59.1	59.9	10.9	12.5	12.3	
8-5-1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(まうけて)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む			1(1)ア(ア)												88.1	85.9	80.3	2.4	5.5	7.0	
8-5-2	古文に当てはまる言葉を昔語の中から抜き出す	古典と昔語とを対応させて内容を捉える			2(1)ア(イ)												77.6	70.1	71.0	6.1	8.3	9.0	
8-6	文字を書く際に生かしたアドバイスとして適切なものを選択する	文字の大きさ、配列などに注意して書く			1(2)ア												74.5	78.3	77.6	0.0	1.4	1.6	

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは全国より3ポイント以上上回っているもの

平均正答率が全国以上の設問数	22 / 32問
平均正答率が全道以上の設問数	22 / 32問
無回答率が全国より3ポイント以上上回っている設問数	0 / 32問

全国と比べて正答率が高かった問題

設問番号 8三

出題の趣旨 「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる。」

問題 「適切な語句を選択する」

三 次のアからキの文では、() の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つずつ選びなさい。

ア よい結果を早く出したいときは、(1) 一事が万事 2 論より証拠 3 急がば回れ 4 光陰矢の如しといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ。

イ 先のこととは分らないが、(1) とりあえず 2 思いがけず 3 覚えす 4 知らず知らず準備だけはしておこう。

ウ 地域の伝統的な文化を(1) 景勝 2 敬称 3 継承 4 整理する。

エ 笑い声が満ちている家には幸福が訪れることを、「笑う(1)人 2 庭 3 所 4 門」には福来たる」という。

オ お客様、私が校内を(1) ご案内いたします 2 ご案内します 3 ご案内になります 4 ご案内されます。

カ あの人、(1) 一朝一夕 2 単刀直入 3 悪戦苦闘 4 右往左往)にもの言う。

キ 忙しい兄は、休日(1)のびのびと羽を(1) 伸ばす 2 交わす 3 並べる 4 飲む。

< 正答 > ア = 3、イ = 1、ウ = 3、
エ = 4、オ = 2、カ = 2、キ = 1

当別町正答率は7問の平均が87.4%
全国は85.3%で2.1ポイント上回っている。
7問全問が全国、全道を上回る結果となった。

学習指導の改善ポイント

[正答の解説]

ア～「時間がかかっても安全確実な方法をとったほうが、結局は目的を早く達する。」という意味を持つ「急がば回れ」が正答である。

イ～「さしあたって」という意味を持つ「とりあえず」が正答である。

ウ～「受けつぐ」という意味を持つ「継承」が正答である。

エ～「笑いが満ちた明るい家庭には自然に幸福が訪れることのとえ」である「笑う門には福来たる」が正答である。

オ～「案内する」の謙譲語である「ご案内します」が正答である。

カ～「前置きなしにいきなり本題に入る」という意味をもつ「単刀直入」が正答である。

キ～「抑圧された状態から自由になり、思うように振る舞う」という意味をもつ「羽を伸ばす」が正答である。

語句についての理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中での意味を捉えることが大切である。そのためには、話や文章の中で実際に使われている語句の意味を考え、似た意味を表す別の言葉に言い換えてみるなどの学習活動が有効である。また、語感を磨き語彙を豊かにするためには、例えば、類義語を取り上げ、使う場面や伝えたい内容を考えた上で適切に使い分けたり、「ことわざ辞典」を活用し、実際に話や文章の中でことわざや慣用句等を使ったりするなどの学習活動が効果的である。

全国と比べて正答率が低かった問題

設問番号 8-1

出題の趣旨 「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。」

問題 「漢字を書く」

- 一 文中のカタカナを漢字に直し、楷書でいねいに書きなさい。
- 1 地域の人をショウタイする。

< 正答 > 招待

当別町の正答率53.3%、全国平均より4.3ポイント下回っている。

学習指導の改善ポイント

「招」については、「紹」、「召」などという誤答が見られ、「待」については、「持」、「対」などという誤答が見られた。漢字を書くことの指導においては、漢字の字形や画数、読みや意味などの基本的な事項を確実に指導する必要がある。その際、字形の似ている漢字のそれぞれの意味を理解させるとともに、部首との関連や、熟語や文中でどのような意味で用いられているかを確認させることが大切である。

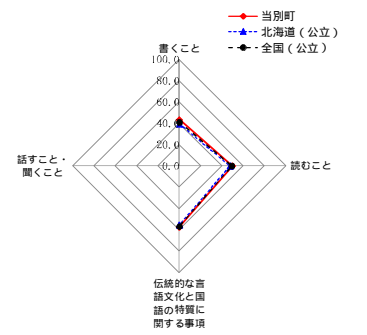
中学校 [国語 B : 主として活用]

国語 B の基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題に関しては、当別町生徒の平均正答率は 51.6% で、全国平均の 51.0% より 0.6 ポイント上回り、全道平均の 49.9% より 1.7 ポイント上回る結果となった。また昨年度の全国と当別町の差は - 5.0 ポイントで、5.6 ポイント上昇し全国を上回る結果となった。

集計結果

対象生徒数		当別町教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)	
		165	41,765	1,018,157	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		9	51.6	49.9	51.0
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	3	49.4	39.2	41.0
	読むこと	8	49.8	47.9	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	57.3	55.3	56.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	43.4	39.2	41.0
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	3	49.4	39.2	41.0
	読む能力	8	49.8	47.9	49.2
問題形式	言語についての知識・理解・技能	4	57.3	55.3	56.8
	選択式	6	57.8	55.3	55.9
	短答式	0			
	記述式	3	43.4	39.2	41.0

< 学習指導要領の領域等の平均正答率の状況 >



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率を百分率で表示。学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等							評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)			
1一	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	表現の技法について理解する				1(1)イ												66.7	65.9	65.3	0.0	0.2	0.3
1二	標語から伝わってくるメッセージを書く際に気を付けたこととして適切なものを選択する	文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ			2エ													57.8	57.2	58.9	0.0	0.3	0.4
1三	ノートを基に、標語から伝わってくるメッセージと表現の工夫とその効果を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く		2オ	2ウ	1(1)イ(オ)												47.9	45.9	48.2	1.8	4.4	3.4
2一	本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える			1イ													32.7	30.3	31.4	0.0	0.4	0.6
2二	本やインターネットの内容から答えが得られるものとして適切なものを選択する	複数の資料から必要な情報を読み取る			1カ													63.0	60.1	60.9	0.0	0.5	0.7
2三	水の中に浸すと、切手をきれいに拭くことができる理由を書く	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く		1ウ	2オ													32.7	27.5	28.4	15.8	18.5	16.0
3一	演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する	本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る			1カ													49.7	52.8	52.0	0.0	0.5	0.7
3二	殿さまの言葉が表す殿さまの姿として適切なものを選択する	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する			2イ	2(1)ア(イ)												64.8	65.4	67.2	0.0	0.6	0.8
3三	落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く	落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く		1ウ	2エ	2(1)ア(ア)												49.7	44.2	46.5	9.7	9.8	8.6

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは全国より3ポイント以上上回っているもの

平均正答率が全国以上の設問数	5 / 9問
平均正答率が全道以上の設問数	7 / 9問
無回答率が全国より3ポイント以上上回っている設問数	0 / 9問

全国と比べて正答率が高かった問題

設問番号 2三

出題の趣旨 「資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことができるかどうかをみる。」

問題 「水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く」

2
本の一部

次は、接着剤について書かれた『本の一部』と『インターネットの情報の一部』です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

いろいろな物をくっつけることができる接着剤。物を組み立てるときや壊れた物を直すときに、とても便利なものですが、なぜ接着剤は物と物とをくっつけることができるのでしょうか。物をくっつける仕組みはいろいろありますが、ここでは代表的な仕組みで考えてみましょう。

接着する物の表面を顕微鏡で見てみると、

つるつるしているように見える金属でも、その表面には肉眼では見えない凹凸があることが分かります。そこに接着剤を塗ると、凹凸のすき間に接着剤が入り込みます。そして、すき間に入った接着剤が固まることで物がくっつきます。これを「アンカー効果」といいます。アンカーとは船の碇のことです。接着剤が物をくっつける仕組みを、海の底に碇を下りし船を留めおく様子に例えて、そう呼んでいます。つまり、液体の状態で物の表面に広く行き渡った接着剤が、すき間に入って固体となることで、物と物をくっつけているのです。

次に、接着剤が液体から固体になる変化について考えてみましょう。

接着剤が液体から固体になる変化には、いくつかの種類があります。例えば、工場のりや木工用接着剤は、接着剤の中に水分や溶剤を含んでいて、それらが蒸発するなどで固まります。水分を含んでいない切手の場合も同様で、切手の表面ののりの部分は、ぬらすことで液体の接着剤になり、やがて固まります。つまり、接着剤に含まれる水分や溶剤が蒸発することで、接着剤が液体から固体になる点で共通しています。また、アイロンでくっつけるタイプのアクリル系の場合は、固まっていた接着剤がアイロンの熱によって溶け、いったん液体になり、それが冷えて固体になることでくっつきます。このように、熱を加えて接着剤を一度溶かし、その後、液体が冷えて固まることでくっつく接着剤を「ホットメルト接着剤」といいます。他にも、液体が化学変化を起して固体になるものがあります。例えば、瞬間接着剤はその一例です。物の表面には、乾いているように見えてもわずかに水分が含まれています。また、空気に水分が含まれています。瞬間接着剤は、それらの水分に反応し、非常に速いスピードで固体に変化するのです。

最後に、接着剤がどのように固まるか考えてみましょう。

接着剤の用途を調べると、思いもよらないものに接着剤が使用されていることが気付きます。例えば、飛行機やスペースシャトルの機体の組み立てには接着剤を使用しています。電子部品を作る際にも、各部分の隙などを埋めて接着剤を使用することがあります。また、つり橋の中には、橋を支えているロブを、コンクリートでできた土台の中に接着剤で固定している橋もあります。このように、現代においては接着剤は、様々な場面で使用されています。

三 封筒に貼ってある切手を水の中にしばらく浸しておくと、きれいにはがすことができます。その理由を次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線でもしりたり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと。

条件2 二十字以上、五十字以内で書くこと。

< 正答例 >

- ・ 切手を水に浸すことで、固体となっていたのりが液体となり、アンカー効果がなくなるから。(43字)
- ・ 切手ののりが液体になり、アンカー効果を失うから。(25字)
- ・ 水にしばらく浸すと切手ののりの部分が固体から液体になる。その結果、アンカー効果がなくなるから。(48字)
- ・ アンカー効果で物をくっつけていた接着剤が、水に浸されると液体になるから、切手がはがれる。(45字)

当別町の正答率 32.7%、全国平均より 4.3 ポイント上回っている。

学習指導の改善ポイント

内容が正確に伝わるように説明する。本や文章を読んで得られた知識は、他の人に向けて説明することで一層明確になるとともに定着が図られる。説明する際には、複数の情報を正確に理解し、相手や目的に応じて取捨選択したり関係付けたりして、説明する内容を適切に表現することが求められる。その際、以下の二点を意識するように指導することが大切である。

- ・ 本や資料から得た情報を正確に理解して整理しているか
- ・ 伝えたい内容を正確かつ分かりやすく述べているか

生徒が書いたものを適切に評価する。言語活動に取り組みせる際には、評価規準を具体的に設定し、生徒が表現した内容が適切であるかどうかを判断し、必要に応じて指導を加えることが大切である。また、定期テスト等において、教科書で学習した文章とは違う文章で、身に付けた能力が定着しているかどうかを確認することも重要である。

全国と比べて正答率が低かった問題

設問番号 3ー

出題の趣旨 「本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。」
 問題 「演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する」

3

落語は、一人の演者が、座ったまま何人もの登場人物を演じ分けて物語を表現する日本の伝統的な芸能です。次の「落語を紹介する本の一部」を参考に、次の三つの要素で構成されている。

■落語の構成 ■ 次の三つの要素で構成されている。

（まくら） 本題に入る前の導入部分。本題に関係のある短い話などで聞く人を引き付ける。

（本題） 話の中心部分。「地」と呼ばれるナレーションを挟みながら、主に登場人物の会話で話を進める。

（落ち） 話の最後の部分で、聞く人を笑わせたり納得させたりする。話がストンと落ちるように結末を迎えるので「落ち」という。

■人物の演じ分け ■ 一人で演じるので、独特の工夫がある。

客席から見ると、舞台の右の方を上手、左の方を下手という。会話の場面では顔を上手や下手に向けてすることで、登場人物の上下関係や位置関係を表す。顔の向きは、言葉遣いや口調、仕草を変えることで、何人もの登場人物を表現する。

（下手）

落語「目黒のさんま」の最後の部分

殿、ご注文のさんまでございます。なにとぞご賞味くださいまし。

なに、これがさんまと申すか。ばかに白いではないか。ましがいいではないのか？ たしか、もっと照くつけておつかはずじゃか……

いいえ、さんまに相違ございません。

さようか、どれどれ……

殿さまが、箸でおとりになると、ポーンとかすかじさんまのおいがしてありますから、

うーん、このにおいはまさしくさんまじや。これ、さんまよ、恐しかったぞ。

殿さま、感謝にむせて……と目めしあがったのですが、蒸して、脂がぬいてあるばさばさのさんまですから、どうしたっ
 ておいしいはずはありません。

これがさんまか？

御意。

ふーん……して、このさんま、いすれよりとりよせましたのじや？

は、は、日本橋魚河岸にごります。

あつ、それはいかん、さんまは目黒にかきる。

一、——線部 「なに、これがさんまと申すか。」 ——線部 「いいえ、さんまに相違ございません」とありますが、この部分を落語で演じる場合、演者はそれぞれ、顔をどちらの方向に向けて話しますか。【落語を紹介する本の一部】を参考にして、次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1、 上手 上手
- 2、 上手 下手
- 3、 下手 上手
- 4、 下手 下手

< 正答 > 3 当別町の正答率 49.7%、全国平均より 2.3 ポイント下回っている。

【落語を紹介する本の一部】の「人物の演じ分け」の項目には、「相手の立場が下なら下手に向かって話す」、「相手の立場が上なら上手に向かって話す。」ことが写真とともに示されている。本設問で示した - 線部 は、殿様の言葉であることから「下手」に向かって話し、 - 線部 は、家来の言葉であることから「上手」に向かって話すことが適切である。

学習指導の改善ポイント

中学校における古典の指導は、生徒が古典に親しむことを狙いとしている。そのため、古典を学習する際には、古典の原文に加えて、古典について解説した文章などを取り上げることが効果的である。また、落語や歌舞伎、狂言などの伝統芸能に触れて、演じ方に興味をもったり、情景や人物について想像を広げたりすることなども、古典に一層親しむことにつながる。伝統芸能に触れる方法としては、音声や映像メディアの活用なども考えられる。

指導に当たっては、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語 - 5 も参考になる。

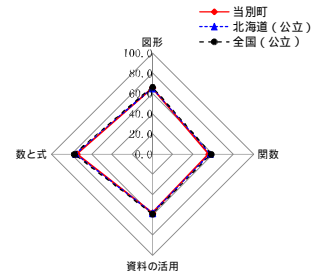
中学校 [数学 A : 主として知識]

数学Aの基本的な知識・技能が身に付いているどうかをみる問題に関しては、当別町生徒の平均正答率は65.6%で、全国平均の67.4%より1.8ポイント下回り、全道平均の66.0%より0.4ポイント下回る結果となった。また昨年度の全国と当別町の差は-0.5ポイントで、1.3ポイント広がる結果になった。

集計結果

対象生徒数		当別町教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)	
		164	41,772	1,018,328	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と式	36	65.6	66.0	67.4
	図形	12	65.6	65.1	66.4
	関数	8	55.6	56.9	58.0
	資料の活用	4	58.2	58.3	59.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	15	66.3	66.2	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	21	65.1	66.0	66.8
問題形式	選択式	18	63.6	63.6	64.4
	短答式	18	67.7	68.5	70.4
	記述式	0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域							評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
			数と式	図形	関数	資料の活用	意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)				
1(1)	$3/4 + 5/6$ を計算する	分数の加法の計算ができる	小6(1)イ														82.5	82.3	85.8	2.4	3.5	2.8
1(2)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	1(1)ウ														51.8	65.4	70.7	1.2	1.5	1.5
1(3)	-7 の絶対値を書く	絶対値の意味を理解している	1(1)ア														70.1	80.1	81.0	8.5	7.3	5.9
1(4)	35 を基準にして38 を正の数で表す	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	1(1)ア														82.1	89.4	91.1	1.8	2.5	2.3
2(1)	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	1(2)エ														33.5	41.0	45.2	8.5	11.4	11.1
2(2)	$10xy + 5x$ を計算する	単項式どうしの加法の計算ができる	2(1)ア														80.9	90.1	90.7	1.2	2.5	2.4
2(3)	$a = 2, b = 3$ のときの式 ab^2 の値を求める	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる	2(1)イ														89.0	81.7	82.6	3.0	6.1	5.9
2(4)	男子 m 人と女子 n 人が1人2個ずつ持つ風船の合計数を m, n を用いて表した式を選ぶ	数量を文字式で表すことができる	2(1)イ														81.5	90.0	91.2	0.0	0.3	0.4
3(1)	一元一次方程式を解くとき、移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ	等式の性質と移項の意味を理解している	1(3)イ														80.9	89.8	89.7	0.0	0.5	0.6
3(2)	一元一次方程式 $(x - 1)/3 = 2$ を解く	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	1(3)ウ														83.4	58.4	59.5	11.6	13.0	12.4
3(3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることできる	2(2)ウ														74.4	73.4	74.1	0.6	1.3	1.0
3(4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} x + y = 3 \\ x - y = 2 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ														87.1	66.3	67.2	5.5	10.4	10.0
4(1)	線対称な図形を完成させる	対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成させることができる	小6(1)イ														88.2	94.1	93.8	0.0	2.4	2.5
4(2)	与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ	線分の垂直二等分線の作図の方法について理解している	1(1)ア														50.6	56.6	56.0	0.0	0.6	0.7
4(3)	与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ	図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができる	1(1)イ														49.9	41.9	42.5	0.0	0.4	0.6
5(1)	直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く	空間における直線と平面の平行について理解している	1(2)ア														79.9	79.2	81.0	0.6	4.9	4.2
5(2)	三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ	平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成について理解している	1(2)イ														87.2	84.4	84.8	0.6	0.4	0.5
5(3)	円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径を読み取る	円錐の展開図において、おうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることを読み取ることができる	1(2)イ														87.1	66.8	67.7	3.7	7.9	7.4
5(4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	底面が合同で高さ等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	1(2)ウ														31.1	34.9	38.7	0.0	0.6	0.7
6(1)	長方形 ABCD において、 $AC = BD$ が表す性質を選ぶ	記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる	2(2)ウ														85.2	58.9	61.7	0.0	0.5	0.6
6(2)	三角形の外角について、正しい記述を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	2(1)ア														76.8	71.3	73.4	0.0	0.8	1.0
6(3)	n 角形の内角の和を求めるとき、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n - 2)$ が表すものを選ぶ	n 角形の内角の和を求める式 $180 \times (n - 2)$ における $(n - 2)$ の意味を理解している	2(1)イ														32.3	45.5	47.8	0.0	0.8	1.0
7	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2)ウ														78.0	72.8	73.1	0.0	0.7	0.9
8	証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する	証明のための構想や方針の必要性と意味を理解している	2(2)イ,ウ														78.8	74.8	75.8	4.3	8.0	7.2
9	与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「...は...の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	1(1)ア														31.1	34.3	35.8	10.4	18.9	17.9
10(1)	$x = 2, y = 6$ の比例式を求める	比例の関係を式に表すことができる	1(1)エ														53.0	53.9	56.7	11.0	14.1	13.0
10(2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	反比例の意味を理解している	1(1)イ														78.8	74.8	75.9	0.0	0.9	1.1
10(3)	$y = vx$ を基に、速さ v が一定のとき、時間 t と道のり s の関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた表を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することができる	1(1)エ														54.9	58.6	60.4	1.2	1.3	1.5
10(4)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している	1(1)エ														34.1	43.7	45.7	0.6	1.5	1.7
11(1)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	2(1)イ														62.4	49.9	47.3	1.8	1.4	1.8
11(2)	一次関数 $y = 3x - 4$ のグラフを選ぶ	一次関数 $y = ax + b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	2(1)イ														77.4	74.8	75.1	1.2	1.2	1.4
12	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点を選ぶ	連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している	2(1)ウ														64.6	65.3	66.7	1.8	2.3	2.5
13(1)	生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	度数分布表から相対度数を求めることができる	1(1)ア														37.2	42.0	40.7	15.2	18.0	16.7
13(2)	ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ	ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している	1(1)ア														50.6	54.8	52.0	1.8	1.7	1.8
14(1)	画びょうを投げた実験結果から、上向きになる確率を選ぶ	確率の意味を理解している	2(1)ア														85.4	76.8	76.6	1.8	1.9	2.0
14(2)	樹形図を利用して、3枚の確書と同時に投げるとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める	樹形図などを利用して、確率を求めることができる	2(1)ア														59.8	59.4	65.1	8.5	12.6	10.6

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の緑色は、平均正答率が全道以上のもの
 無解答率の()書きは全国より3ポイント以上上回っているもの

平均正答率が全国以上の設問数	18 / 36 問
平均正答率が全道以上の設問数	23 / 36 問
無解答率が全国より3ポイント以上上回っている設問数	0 / 36 問

全国と比べて正答率が高かった問題

設問番号 14(1)

出題の趣旨 「多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解しているかどうかをみる。」

問題 「実験結果から、上向きになる確率を選ぶ」

14 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 右の図のような画びょうがあります。
この画びょうを投げるとき、上向きになる確率を求める実験をしました。
下の表は、この画びょうを投げたときの上向きの回数を記録し、投げた回数に対する上向きの回数の割合をまとめたものです。

投げた回数	上向きの回数	投げた回数に対する上向きの回数の割合
10	8	0.80
50	36	0.72
100	56	0.56
500	320	0.64
1000	610	0.61
1500	885	0.59
2000	1200	0.60

この実験結果を表した下の折れ線グラフから、画びょうが上向きになる確率がどのくらいであるかがいえます。

この画びょうが上向きになる確率が、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。

ア およそ1.0 イ およそ0.8
ウ およそ0.6 エ およそ0.5

< 正答 > ウ(およそ0.6)

当別町の正答率 85.4%、
全国平均より 8.8 ポイント上回っている。

学習指導の改善ポイント

確率の意味を理解できるようにするために、ある試行を多数回繰り返したときに、試行回数全体に対するある事象が起こる回数の割合が一定の値に近づいていくことを捉えることができるように指導することが大切である。

問題の実験結果をまとめた表やグラフから、投げた回数に対する上向きの回数の割合は、0.6 に近づいていることがわかる。

表やグラフの見かたを理解できるよう指導することが大切である。

全国と比べて正答率が低かった問題

設問番号 1(2)

出題の趣旨 「指数を含む正の数と負の数の計算ができるかどうかをみる。」

問題 「計算する」

(2) $2 \times (-5^2)$

< 正答 > - 5 0

当別町の正答率 51.8%、全国平均より 18.9 ポイント下回っている。

学習指導の改善ポイント

指数の意味や計算の順序を理解し、確実に計算できるようにする指数を含む正の数と負の数の計算では、計算の順序を理解し、確実に計算できるように指導することが大切である。その際、誤りのある計算例を取り上げ、計算方法を確認する場面を設定することが考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、 -5^2 を $(-5) \times (-5)$ と誤って計算した例を取り上げ、 $(-5)^2$ と (-5^2) が異なること、 (-5^2) は (-5×5) を意味していることを理解できるように指導することが大切である。また、次のように、必要に応じて、計算する前に乗法の記号 \times を用いて表した式を提示することも有効と考えられる。

(例)

$$2 \times (-5^2) = 2 \times (-5 \times 5)$$

$$2 \times (-5)^2 = 2 \times (-5) \times (-5)$$

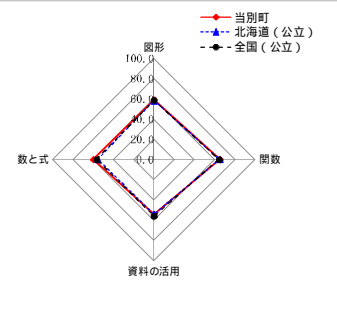
中学校 [数学 B : 主として活用]

数学Bの基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題に関しては、当別町生徒の平均正答率は60.7%で、全国平均の59.8%より0.9ポイント上回り、全道平均の59.4%より1.3ポイント上回る結果となった。また昨年度の全国と当別町の差は-4.2ポイントで、5.1ポイント上昇し全国を上回る結果となった。

集計結果

対象生徒数		当別町教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)	
		164	41,763	1,018,365	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		15	60.7	59.4	59.8
学習指導要領の領域	数と式	3	60.0	55.4	56.9
	図形	5	58.9	58.2	58.6
	関数	5	65.4	65.0	64.4
	資料の活用	2	64.3	54.1	55.9
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	14	58.6	57.4	57.9
	数学的な技能	0			
	数量や図形などについての知識・理解	1	89.6	86.7	87.5
問題形式	選択式	3	65.2	63.5	63.2
	短答式	6	66.1	62.8	63.3
	記述式	6	43.0	43.8	44.8

< 学習指導要領の領域の平均正答率の状況 >



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率を百分率で表示。学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			数と式	図形	関数	資料の活用	意欲学への関心・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)
1(1)	案内図を基に、経路を示すはし紙を選ぶ	与えられた図から情報を適切に選択し、空間における図形的位置関係を的確に捉えることができる		1(2) ア、イ									80.6	78.0	77.0	0.0	0.2	0.3	
1(2)	外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる		1(2) ア、イ									91.5	92.9	92.8	0.6	0.3	0.4	
1(3)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまっく隠れない最も低い位置を求め、方法を言葉や図で説明する	事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる		1(2) ア、イ									61.6	57.5	60.6	8.5	14.5	12.7	
2(1)	2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m + 2n$ を変形する	与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる	2(1) イ、ウ										67.1	61.4	61.2	6.1	9.8	9.3	
2(2)	2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める	事柄が成り立たない理由を説明する場面、反例をあげることができる	2(1) イ、ウ										68.9	63.6	65.4	7.3	9.8	9.0	
2(3)	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することができる	2(1) イ、ウ										49.9	41.1	44.2	5.5	8.5	6.3	
3(1)	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる		1(1) ウ									88.6	86.7	87.5	3.7	6.3	5.8	
3(2)	大地さんの求め方に基づき、ウェーブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる		1(1) ア、エ									55.5	63.5	62.3	(35.40)	30.4	30.1	
4(1)	2つの線分の長さが等しいことを証明する	図形の性質を、構想を立てて証明することができる	2(2) イ、ウ										38.4	39.8	39.4	15.9	24.2	22.5	
4(2)	$BAC = 110^\circ$ 、 $BD = AD$ のとき、 DAE の大きさを求める	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる	2(2) ア、ウ										22.6	22.6	23.3	22.6	26.2	25.8	
5(1)	スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める	ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる		2(1) ア									80.6	77.7	79.7	1.8	5.3	4.8	
5(2)	1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる		2(1) イ									28.0	30.5	32.1	7.3	9.3	7.3	
6(1)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める	与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる		2(1) イ、エ									67.7	64.8	62.7	3.7	8.8	9.0	
6(2)	兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる		2(1) イ、エ									63.6	79.7	79.8	0.0	2.0	2.5	
6(3)	兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる		2(1) イ、エ									90.6	30.3	29.9	11.6	19.4	17.5	

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは全国より3ポイント以上上回っているもの

平均正答率が全国以上の設問数	9 / 15 問
平均正答率が全道以上の設問数	11 / 15 問
無回答率が全国より3ポイント以上上回っている設問数	1 / 15 問

全国と比べて正答率が高かった問題

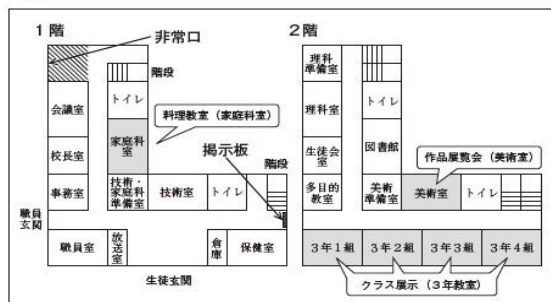
設問番号 1(1)

出題の趣旨 「日常的な事象を表した図から必要な情報を適切に選択し、空間における図形の位置関係を的確に捉えることができるかどうかをみる。」

問題 「案内図を基に、経路を示すはり紙を選ぶ」

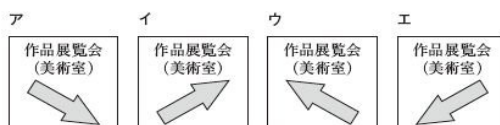
1 第一中学校では文化祭の準備をしています。実行委員の健太さんは、来客用のはり紙やパンフレットを作ったり、校舎に横断幕を取りつけたりします。
図1は校舎の1階と2階の案内図です。

図1



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 図1の掲示板に、美術室への経路を示すはり紙を掲示します。そのはり紙が、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。



< 正答 > ウ

当別町の正答率 80.5%、
全国平均より 3.5 ポイント上回っている。

[正答について]

図1から、掲示板は1階にあり、美術室は2階にあること、掲示板に向かって左側にある階段をのぼる必要があることがわかる。したがって、ウになる。

学習指導の改善ポイント

日常的な事象を、形や大きさ、位置関係に着目して観察しその特徴を捉えられるようにするために、実生活で用いられる平面図や見取り図などを相互に関連付けながら情報を読み取る活動を取り入れることが考えられる。例えば、文化祭のパンフレットを作るために、自分の学校の案内図を基にして、設問(1)のように2つの教室の位置関係を捉えたり、設問(2)のようにある教室の位置を校舎の写真に書き込んだりする活動を取り入れることが考えられる

全国と比べて正答率が低かった問題


設問番号 3(2)

出題の趣旨 「事象を理想化・単純化して問題解決した結果を、事象に即して解釈し、2つの数量の関係を数学的に説明することができるかどうかをみる。」

問題 「2つの数量の間の関係を説明する」

3 大地さんの学校では、体育祭で全校生徒320人が一列に並びウェーブをします。実行委員の大地さんは、全校生徒がウェーブをするのにかかる時間を調べるために、学級の生徒に協力してもらい、下のウェーブのやり方で、実際に時間を計りました。

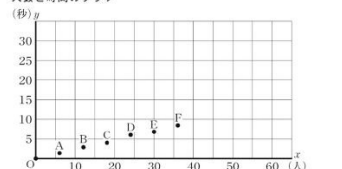
ウェーブのやり方



スタートの合図の瞬間を0秒とし、ウェーブをする人数 x 人と、最後の人が立ち始めるまでにかかる時間 y 秒を、人数を増やしながら調べました。その結果を次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。

ウェーブをする人数とかかる時間							
人数 x (人)	0	6	12	18	24	30	36
時間 y (秒)	0	1.4	2.9	4.1	6.0	6.8	8.4

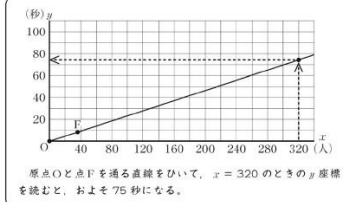
人数と時間のグラフ



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(2) 大地さんは、次のようにして、全校生徒320人がウェーブをするのにかかる時間を求めました。

大地さんの求め方



原点Oと点Fを通る直線をひいて、 $x=320$ のときの y 座標を讀むと、およそ75秒になる。

大地さんの求め方では、人数と時間のグラフで、原点Oから点Fまでの点が一直線上にあり、人数が増えてもすべての点が同じ直線上にあると考えられています。このように考えてよいのは、2つの数量の間に、ある関係があるとみているからです。どの数量の間に、どのような関係があるとみているか書きなさい。

- < 正答例 1 > ウェーブをするのにかかる時間は、ウェーブをする人数に比例する。
- < 正答例 2 > ウェーブをするのにかかる時間とウェーブをする人数との間には、一次関数の関係がある。

当別町の正答率 55.5%、全国平均より 6.8 ポイント下回っている。

学習指導の改善ポイント

日常的な事象を理想化・単純化し、その特徴を的確に捉えられるようにする

事象の変化の様子について予測したり、実際のデータの特徴を分析したりすることができるように指導することが大切である。その際、これまでに学習した数学を基にして解決できるように、事象を理想化・単純化する活動を取り入れることが考えられる。

本設問のように、データにない人数のときにかかる時間をグラフから求める場面では、「ウェーブをする人数」と「かかる時間」の関係を表すすべての点が原点を通る一直線上にある。」と考え、それらの関係を比例とみなすことで、数学の世界で考察する活動を取り入れることが考えられる。

このような、事象を理想化・単純化し、数学を使って問題を解決する活動を、各学年の様々な内容において取り入れ、日常的な事象の問題を数学の世界で考察することのよさを実感できるように指導することが大切である。

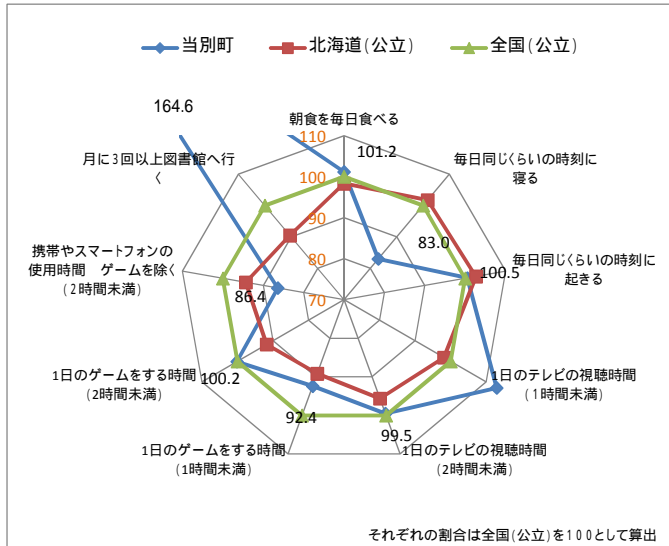
事柄の特徴を的確に捉え、数学的に説明できるようにする

日常的な事象において、数量や図形に着目して見いだした事象の特徴を、数学的な表現を用いて的確に説明できるように指導することが大切である。その際、前提に当たる部分(主部)と、それによって説明される結論(述部)を明確にして表現する場面を設定することが考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、「比例の関係がある。」と結論のみを表現するのではなく、前提に当たる部分として「ウェーブをするのにかかる時間とウェーブをする人数」を明確にし、「ウェーブをするのにかかる時間とウェーブをする人数の間には、比例の関係がある。」と説明できるように指導することが大切である。さらに、独立変数(ウェーブをする人数)と従属変数(ウェーブをするのにかかる時間)を区別し、「ウェーブをするのにかかる時間は、ウェーブをする人数に比例する。」と表現できるように指導することも大切である。

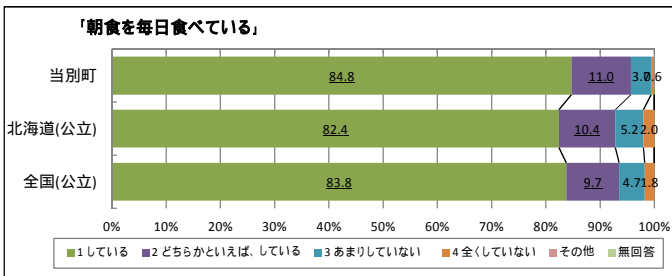
2) 学習状況調査 (生活習慣・学習環境等)

中学校:生活習慣

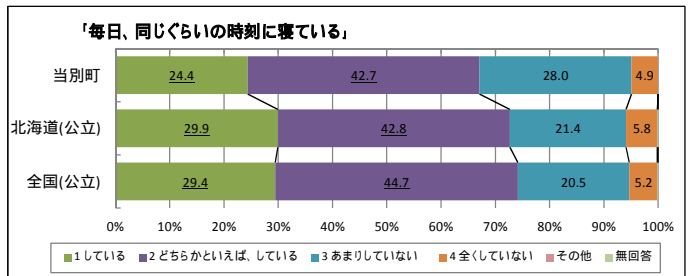


【生活習慣】

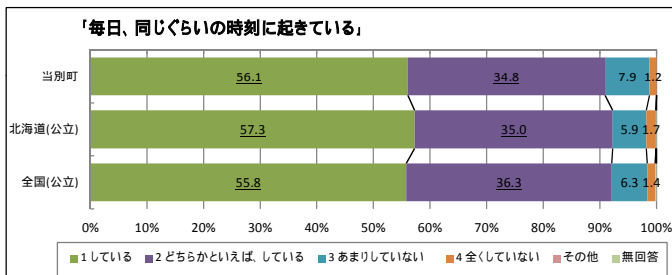
- 約96%の生徒が「朝食を食べる」と答えているが、就寝時刻にバラつきがみられる。「早寝早起き朝ごはん」型の生活習慣の定着が望まれる。
- TVやDVD・ビデオなどの視聴は、減少傾向にあり、全国平均とほぼ同様となった。TVゲームや携帯式のゲームをする時間は全国平均とほぼ同様で、前年度より18.6ポイント減少した。反面、携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットの使用状況が全国平均より多い特徴がみられる。
- 携帯電話やスマートフォンなどの使用が多く、放課後や休日での「家庭での過ごし方」が、変容をしてきている可能性があり、注視する必要がある。
- 図書館の利用率は増加しているが、図書館を利用しない生徒が約半数に上る。これらの生徒に対する指導が必要である。



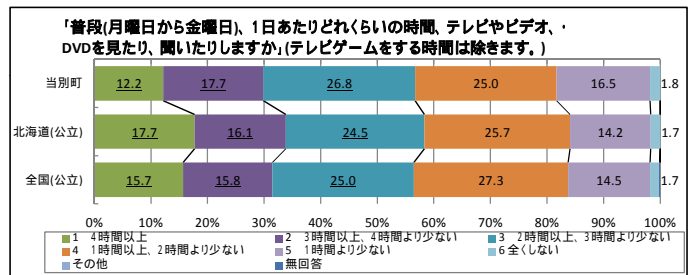
【生活】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は95.8%で、昨年度の調査より2.3ポイント多くなった。



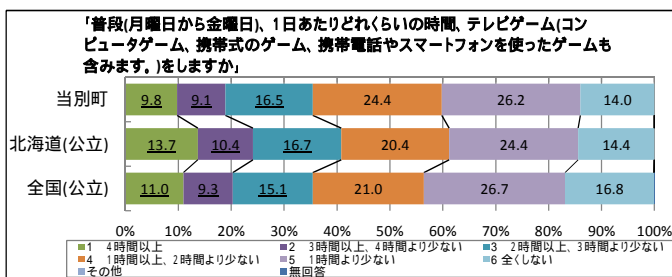
【生活】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は67.1%で、全国よりも7.9ポイント低く、昨年度の調査より8.0ポイント低い。



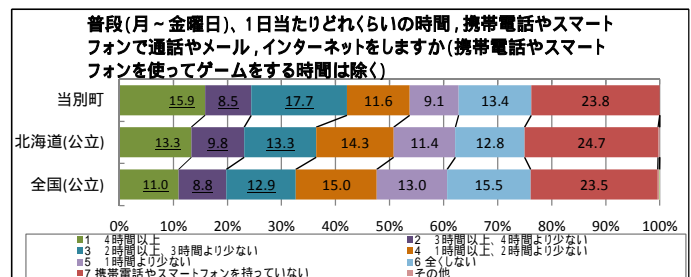
【生活】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は90.9%で、全国とほぼ同様であり、昨年度の調査より2.1ポイント低い。



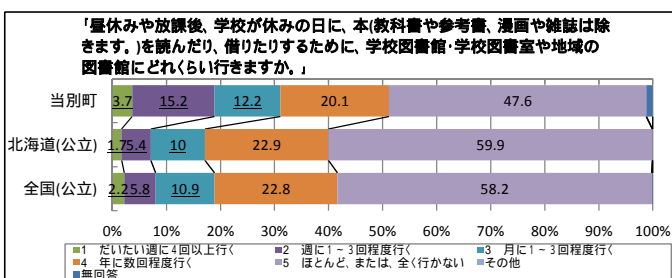
【生活】2時間以上と答えた生徒の割合は56.7%で、全国とほぼ同様である。昨年度の調査より6.6ポイント減少した。



【生活】2時間以上と答えた生徒の割合は35.4%で、全国と同様である。昨年度の調査より18.6ポイント減少した。

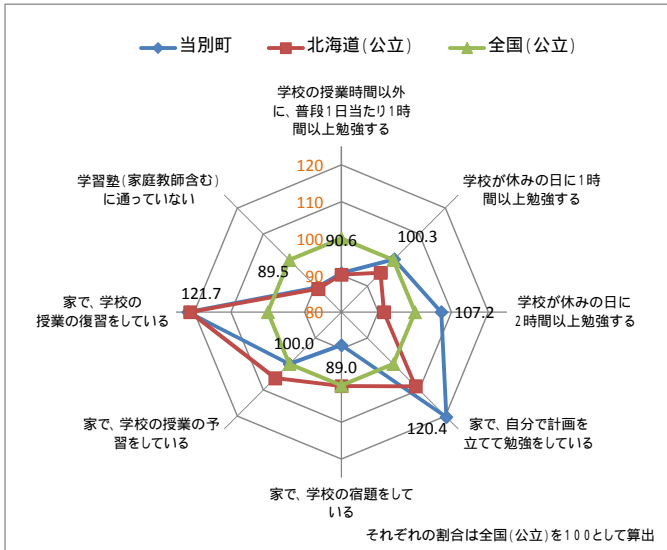


【生活】2時間以上と答えた生徒の割合は42.1%で、全国より9.4ポイント高い。



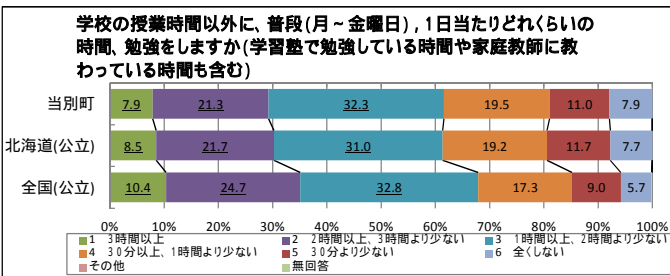
【生活】「月に1～3回程度」以上行くと答えた生徒の割合は31.1%で、全国より12.2ポイント高く、昨年度の生徒から3.0ポイント増えた。

中学校:家庭学習

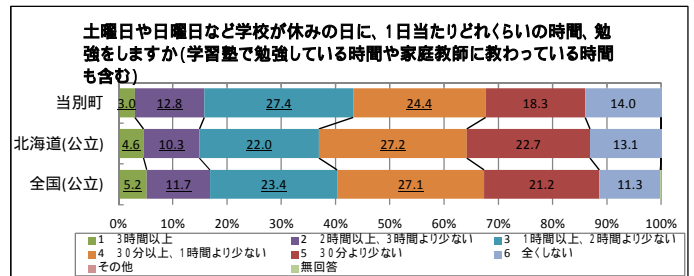


【家庭学習】

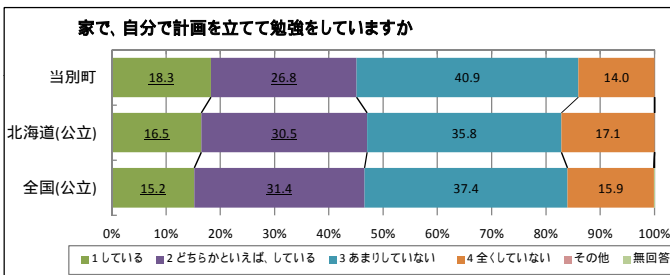
1. 普段の日も休みの日も、家庭学習に1時間以上取り組んでいる生徒数は昨年度の生徒の割合より多くなり、向上してきている。
2. 塾に通っている率は全国と比較して大差があるものの、昨年度より8.7ポイント増加している。
3. 取り組んでいる内容は、「宿題をしている」が昨年度より9.5ポイント増え、また復習中心の学習内容となっており、家庭学習の指導の効果が現れ始めたと思われる。



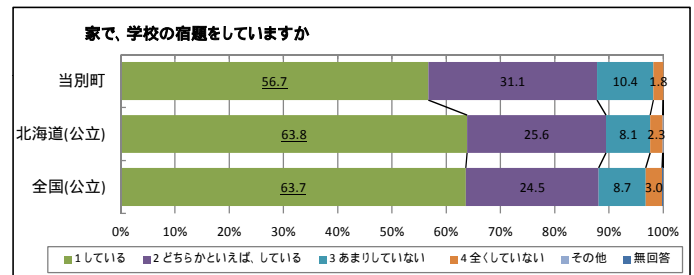
【家庭学習】1時間以上していると答えた生徒の割合は61.5%で、全国より6.4ポイント低く、昨年度の調査より3.6ポイント増加した。



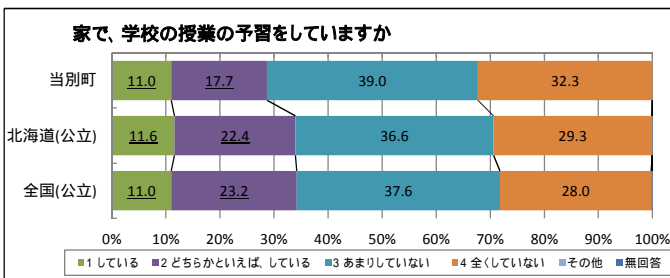
【家庭学習】1時間以上していると答えた生徒の割合は67.6%で、全国と同様の結果になり、昨年度の調査より6.5ポイント増加している。



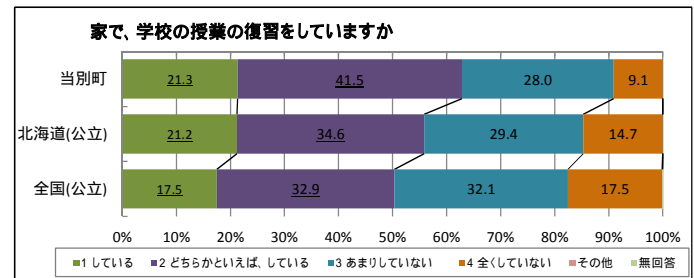
【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は45.1%で、全国とほぼ同様の結果になり、昨年度とほぼ同様となった。



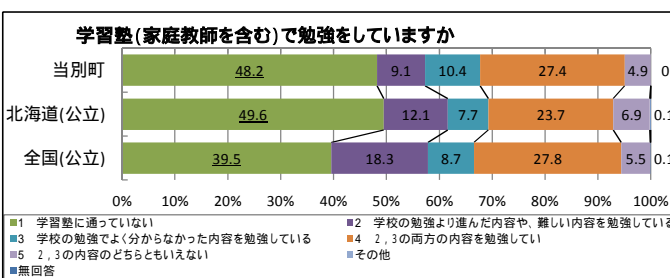
【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は87.8%で、全国とほぼ同様の結果になり、昨年度の調査より3.4ポイント高い。



【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は28.7%で全国より5.5ポイント低く、昨年度の調査より7.0ポイント低い。

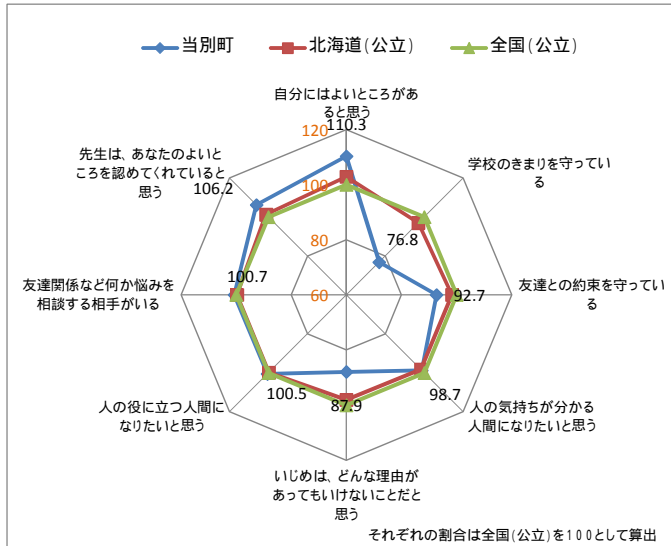


【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は62.8%で全国より12.4ポイント高く、昨年度の調査より7.0ポイント増加している。



【家庭学習】塾に通っていない割合が48.2%で、全国より8.7ポイント高く、昨年度の調査より8.6ポイント減少している。

中学校: 自尊意識、規範意識、学校生活

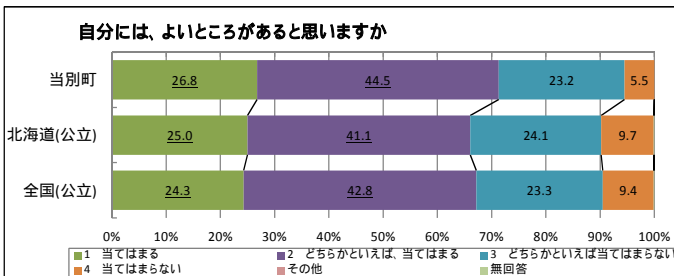


【自尊意識、規範意識】

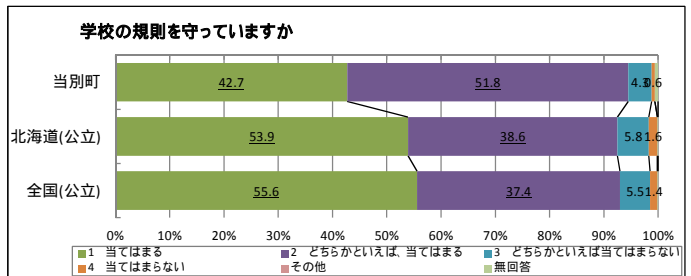
- 『学校の規則を守ってる』と答えた生徒の割合は94.5%で全国とほぼ同様の結果となり、昨年度より2.1ポイント向上しており、遵法意識が高まっているといえる。
- 『人の役に立つ人間になりたい』と答えた生徒の割合は95.8%で、昨年より4.5ポイント増加している状況は、良い方向に向かっていていると思われる。
- 『いじめ、どんな理由があってもよくない』と答えた生徒の割合が昨年度より5.7ポイント低下しており、全国平均からも大きく下回っている。教育活動の中で、ことあるごとに啓発していくことが必要である。

【学校生活】

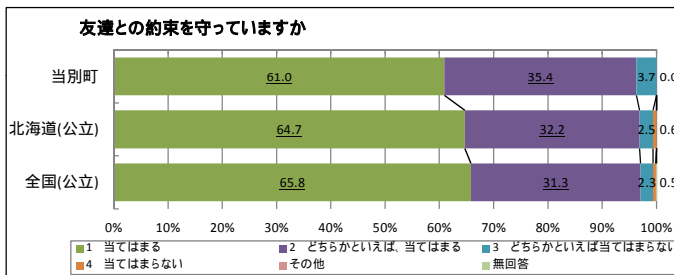
- 学校生活を過ごす上で、出てきた悩みを『誰にも相談しない』が26.2%であり、悩みを一人で抱えることが懸念される。日頃から教職員と生徒が触れ合う機会・時間の確保に努めること、また生活相談、学習相談などの定期相談のほかに、放課後の時間を利用した相談や、副担任や養護教諭・スクールカウンセラーを活用しての積極的な相談活動に取り組むことが必要と思われる。
- 『先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う』と答えた生徒は、全国より4.6ポイント高い78.7%で、先生と生徒の信頼関係や、充足感を得ている生徒が多い。



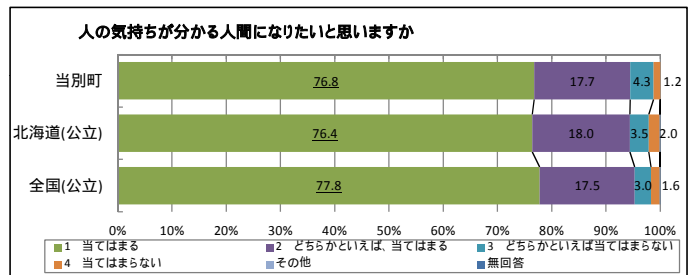
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は71.3%で全国より4.2ポイント高く、昨年度の調査より12.4ポイント高い。



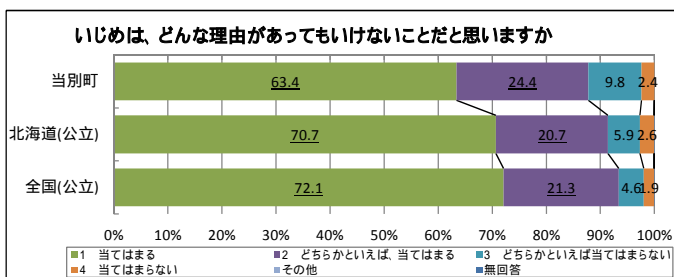
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は、94.5%で、全国より1.5ポイント高く、昨年度の調査より2.1ポイント高くなっている。



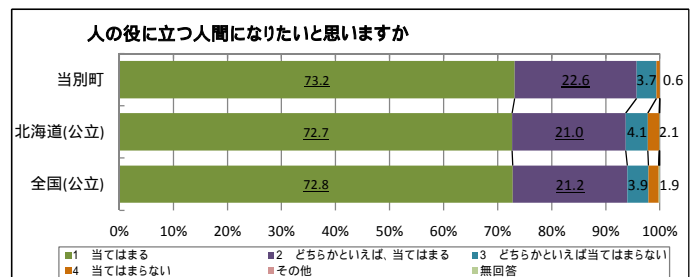
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は96.4%で、全国とほぼ同様の結果となった。



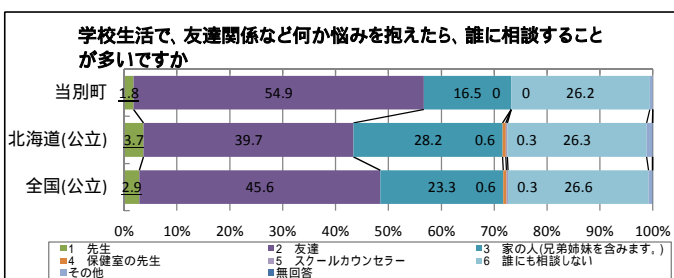
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は94.5%で、全国とほぼ同様の結果となった。



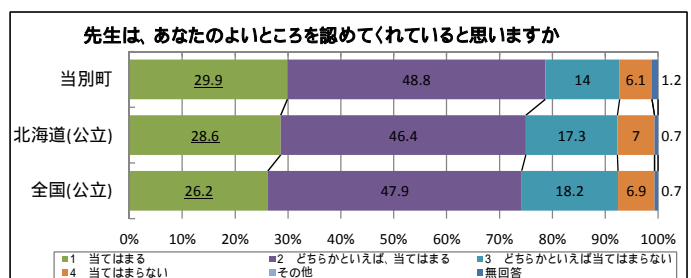
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は87.8%で全国より5.6ポイント低く、昨年度の調査より5.7ポイント低下している。



【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は95.8%で、全国より1.8ポイント高く、昨年度の調査より4.5ポイント高い。

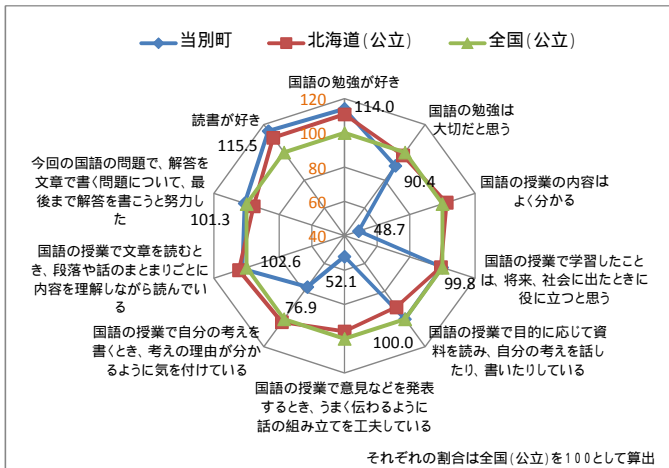


【学校生活】『友達』が全国と共に突出して多いが、『誰にも相談しない』が26.2%。



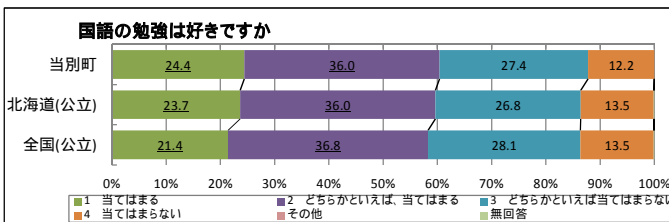
【学校生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は78.7%で、全国より4.6ポイント高い。

中学校:国語の学習

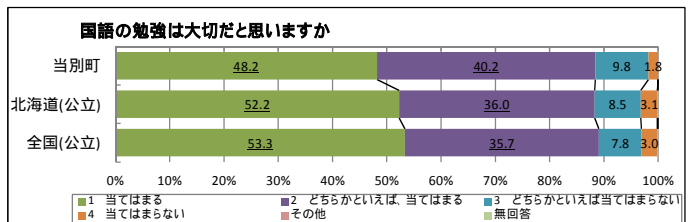


【国語】

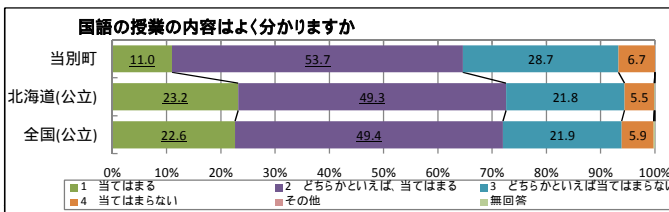
- 『国語が好き』、『国語は大切』、『学んだことは将来役に立つ』、『読書は好き』と答えた生徒は全国平均を上回る数値を示しており、学力調査(B:活用の問題)の結果からも読解力が身につけてきている。
- しかし『国語の内容はよく分かる』は全国平均より7.3ポイント下回っており、『分からないときにどうする』で5.5%の生徒が『そのままにしておく』と答えており、この部分の対応が必要である。
- 『最後まで解答を書こうと努力した』が全国とほぼ同様で、昨年からは1.6ポイント増加していることは、途中で諦めてしまう傾向が少なくなりつつあり、『粘り強さ』が身につけてきたと推察される。



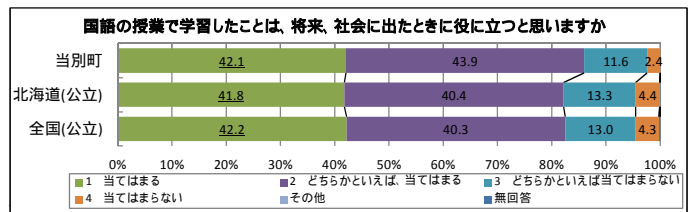
【国語】『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』と答えた生徒の割合は60.4%で、全国より2.2ポイント高く、昨年度の生徒と同様である。



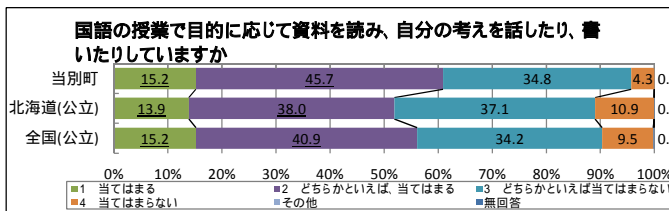
【国語】『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』と答えた生徒の割合は88.4%で、全国とほぼ同様で、昨年度と比べてもほぼ同様の結果になった。



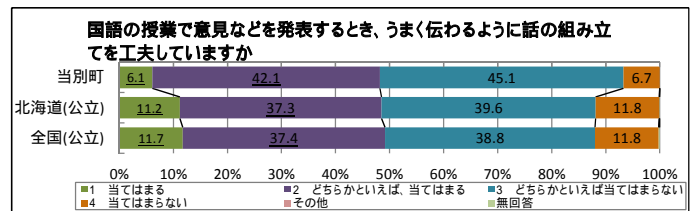
【国語】『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』と答えた生徒の割合は64.7%で、全国より7.3ポイント低く、昨年度の調査より1.2ポイント減少した。



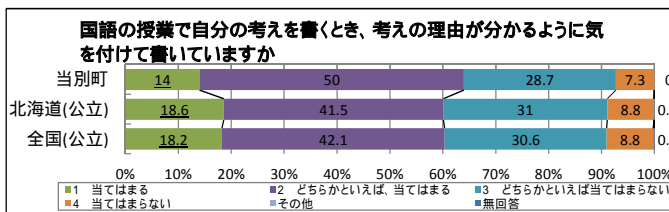
【国語】『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』と答えた生徒の割合は86.0%で、全国より3.5ポイント高く、昨年度の調査より11.4ポイント増加した。



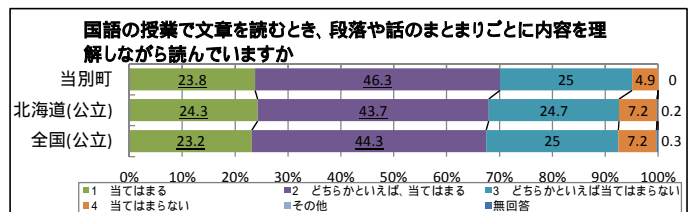
【国語】『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』と答えた生徒の割合は60.9%で、全国より4.8ポイント高く、年度の調査より13.8ポイント高い。



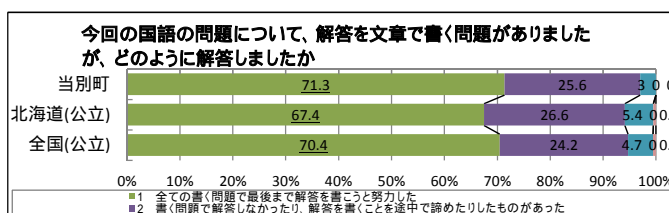
【国語】『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』と答えた生徒の割合は48.2%で、全国と同様であり、昨年度の調査より7.5ポイント高い。



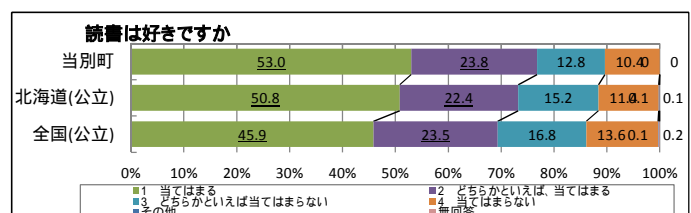
【国語】『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』と答えた生徒の割合は64.0%で、全国より3.7ポイント高く、昨年度の調査より10.0ポイント高い。



【国語】『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』と答えた生徒の割合は70.1%で、全国より3.6ポイント高く、昨年度の調査より1.6ポイント高い。

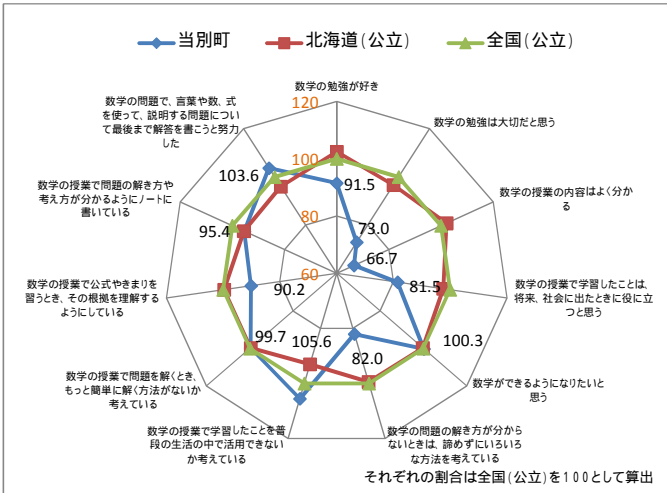


【国語】『最後まで解答を書こうと努力した』が71.3%で、全国とほぼ同様であり、昨年度の調査より1.6ポイント増加した。



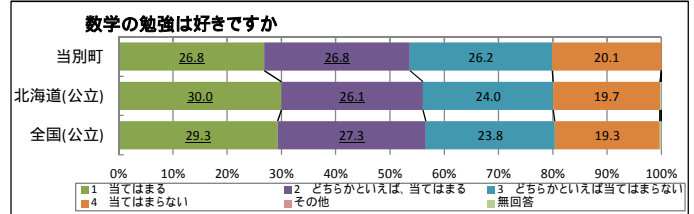
【国語】『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』と答えた生徒の割合は76.8%で、全国より7.4ポイント高く、昨年度の調査より2.8ポイント増加した。

中学校:数学の学習

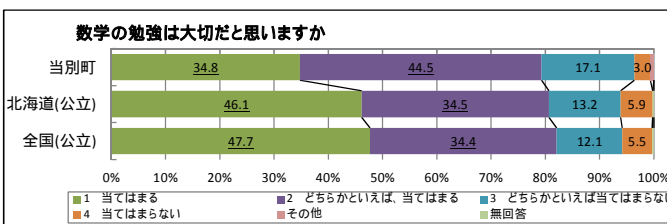


【数学】

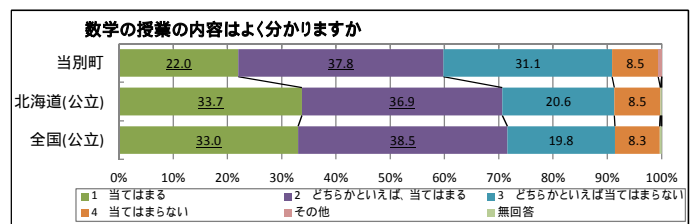
1. 「数学が好き、おおよそ好き」の割合が53.6%であり、約半数近くが「好きではない、嫌い」と答えている。反面「数学ができるようになりたい」と思っている生徒が約90%以上存在している。
2. 「授業の内容がわかる」と答えた生徒の割合は全国平均より低く、この状況を踏まえ、「わかる楽しみ」を感じさせる授業の工夫改善の取組みが必要と思われる。



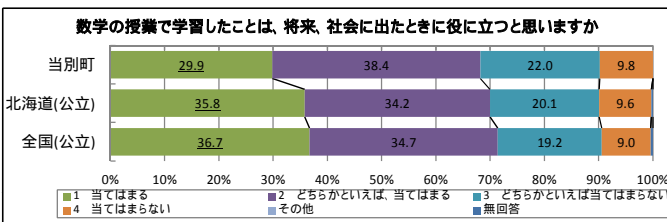
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は53.6%で、全国より3.0ポイント低く、昨年度の調査より8.1ポイント減少した。



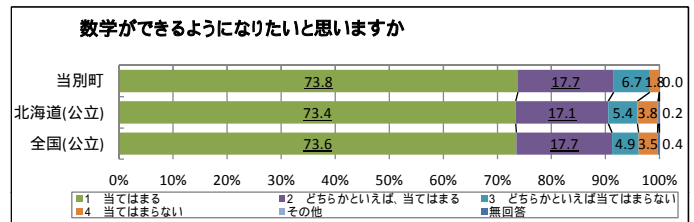
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は、79.3%で、全国より2.8ポイント低く、昨年度の調査より2.8ポイント低い。



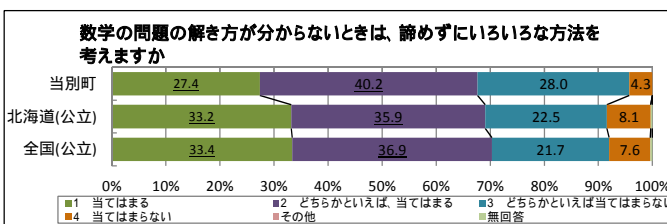
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は59.8%で、全国より11.7ポイント低く、昨年度の調査より8.3ポイント減少した。



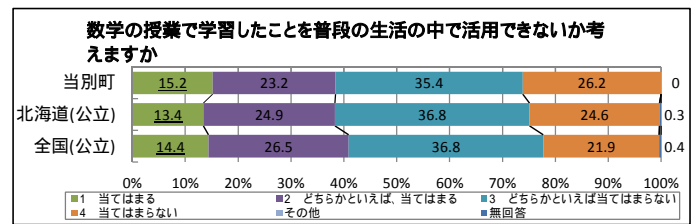
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は85.8%で、全国より3.2ポイント低い。昨年度の調査より1.2ポイント低い。



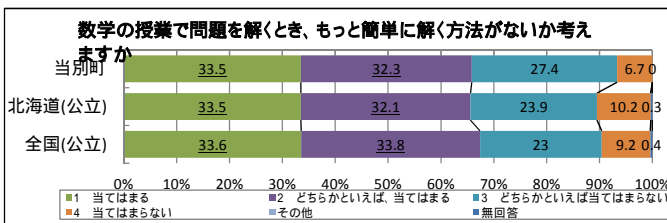
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は91.5%で、全国とほぼ同様の結果となった。



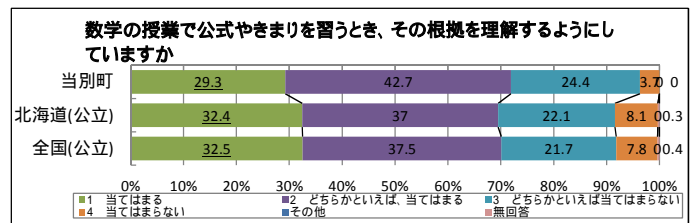
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は67.6%で、全国より2.7ポイント低く、昨年度の調査より7.8ポイント低い。



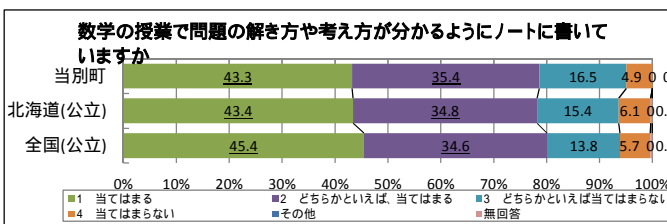
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は38.4%で、全国より2.5ポイント低く、昨年度の生徒とほぼ同様の数値になった。



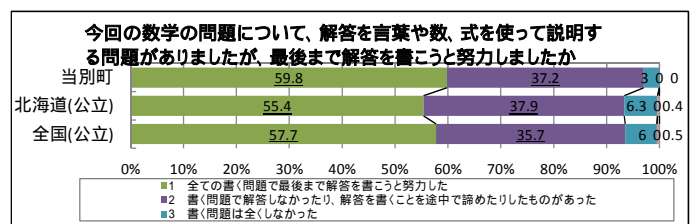
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は65.8%で、全国より1.6ポイント低く、昨年度の調査より2.0ポイント高い。



【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は72.0%で、全国より2.0ポイント高く、昨年度の調査より3.2ポイント低い。



【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は78.7%で、全国より1.3ポイント低く、昨年度の生徒と同様の数値になった。



【数学】「最後まで解答を書こうと努力した」が59.8%で、全国より2.1ポイント高く、昨年度の調査より24.7ポイントも増加した。しかし約40%の生徒が途中で諦めている結果となった。

学力・生活習慣の向上に向けた取組

この調査結果を基に、各学校では児童生徒がつまづき易い内容や、指導方法の工夫改善が必要な領域・分野について明確化し、今後、学校改善プランを作成し実行することになります。また、当別町教育委員会においても、各学校の指導方策を確実なものにするために、今後さまざまな支援を実施していきます。

【教育委員会による学校への主な支援】

全国学力・学習状況調査の分析結果及び改善方策の提示。

T T（ティーム・ティーチング）や少人数・習熟度別指導など、個に応じた指導の工夫改善のため、教員の加配事業やS A Tなどの人的支援。

教育の情報化を推進するため、I C T教育機器の充実。

国際理解教育や英語教育を推進するため、継続的なA L Tの配置及び拡充。

児童生徒の郷土愛の醸成のため、地域人材を活用した総合的な学習の時間等の奨励及び支援。

授業の工夫改善の研究など「当教研」の研究指定や各種事業に対する支援及び助言。

授業や学校経営など、学校教育指導員による指導及び助言。

長期休業中に実施する教職員研修や、比較的教職経験の少ない初任者や期限付教員等の授業指導・課題研修の推進。

図書館司書の配置検討。

小学校から中学校まで9年間を見通した一貫教育の検討。

基礎学力定着に向けた、放課後学習及び土曜学習の検討。

道支援事業による、スクールカウンセラーの派遣。

【学校の取組】

自校の教育課題解決のための教育課程の編成・実施・評価・改善の取組の推進。

本調査結果に基づく「学校改善プラン」の策定・実行・改善。

授業力向上を目指した「校内研修（学習規律やノート指導等）」や「O J T（職場内指導）」の充実。

潤いのある学習環境づくりのための、統一感ある掲示や教材教具の整備点検。

朝読書や朝学習等、授業以外の時間を活用した取組の充実。

「家庭学習の手引き」の活用による、宿題・課題など家庭学習の推進。

学校からの情報発信による、保護者や地域との協働、連携。

豊かな心を育むため、私たちの道徳を活用するなど、道徳教育の推進。

いじめを絶対に許さない規範意識や情報モラル指導等の今日的課題に対応した指導。

個性を伸ばし社会性を身につけるため、ボランティア活動や児童・生徒会活動の推進。

学力向上のための9年間を見通した小・中学校の連携の推進。

図書館司書を活用した学校図書館等、読書環境の充実。

スクールカウンセラーを活用した相談活動、相談体制の充実。

各学校ごとの調査結果及び改善策については、各校のホームページをご覧ください。

各学校のホームページへの掲載は平成27年1月中旬頃を予定しています。